

## 凡 例

- 一、本書ハ本村々勢ノ大要ヲ知ラシメンガ為メ編纂セルモノナレバ添フルニ諸統計ヲ以テシタリ。
- 一、本書ハ可及的簡明ヲ主トシ各條項ニ於ケル顯著ナル事項ノミ撰擇シテ掲記シタルヲ以テ、時ニ脱漏ノ点ナキニアラズ、一々之ヲ摘録センカ数冊ヲ要シ 浩瀚ニ失スレバナリ。
- 一、本書ハ題目ヲ二十三項ニ分チタルモ紙数ニ限りアルヲ以テ未ダ充分類蒐シ能ハザルノミナラズ從ツテ不完全ノ点多シ、讀者乞フ之ヲ諒セラレヨ。
- 一、本書ノ編纂ハ本村最初ノ企畫ナルヲ以テ概ネ故キヲ尋ネ現在ニ及ボシタリ、間々現在ノミヲ記セルモアレド乞フ咎ムル勿レ。
- 一、本書ニ記セル統計的數字ノ最近ハ昭和四年末現在ヲ以テシタルモ時ニ編輯當時ノ現在ヲ記シタルモノナキニ非ズ。斬カル數字ハ常ニ増減ヲ免レザルモノナレバ時ニ現在ト相適ハザルモノナキニ非ズ。是レ実ニ止ムナキニ至リシナリ、乞フ之ヲ杜撰ナリト咎メ給フコト勿レ。
- 一、本書中假令バ土木事務ノ如キ過去ノミヲ記シタリ。創始當時ノ苦心ノ程ヲ汎ヲ知ラシメメンガ爲ナリ。

一、本書ニ記ス社寺ノ由緒旧蹟ノ由来等ハ日高郡誌及紀伊續風土記ヨリ引用シタルモ時ニ従前傳ヘ  
来レル傳説ノ如キ妄リニ之ヲ訂正セズ其俛登載シタリ。故ニ徃々荒唐ニ趨リ無稽シ陥ル点ナキ  
ニ非ルモ亦是ノ古キコトヲ湮滅セシメズ傳ヘシメントスルモノナリ。

一、本書ニ掲載スル社寺及旧蹟ハ勉メテ踏査セルモ間々現況ト齟齬セル点ナキヲ保シ難シ、又時ニ  
編者ノ心附カザル点モナキニ非ズ。是編者ノ罪宜シク御叱教セラレンコトヲ希フ。

一、本書ハ村内統テノ狀況ニ通ゼザル編者ガ且ツ勿卒ノ間ニ成レルモノナルヲ以テ従テ撰擇ヲ誤リ  
滋味ヲ遣シヲ却テ糟粕ヲ収メタルモノナキヲ保セズ。是等ハ亦他日ノ更訂ヲ待タントス。

一、本書ノ編纂ニ當リ引用セシ書ハ概ネ日高郡誌及紀伊續風土記ヨリシタリ。従テ各項ノ末尾記シ  
タルモ、間々書名ヲ記セザル所アリ、乞フ之ヲ諒トセラレヨ。

一、本書編輯ニ當リ材料ヲ提供セラレタル諸氏ニ深甚ノ感謝ノ意ヲ表ス。

以上

編者誌

稻原村勢一斑

目次

第一	地位	五
第二	地勢	五
第三	山岳	五
第四	河川	六
第五	池沼	六
第六	面積	七
第七	人口	八
第八	沿革	九
第九	交通	十一
第十	通信	十二

	第廿三	第廿二	第廿一	第二十	第十九	第十八	第十七	第十六	第十五	第十四	第十三	第十二	第十一
附	著	名	社	雜	各	兵	土	生	產	衛	教	財	行
錄	名	所	寺	表	種	事	木	產	業	生	育	政	政
	植	舊	宗		團		事						
	物	蹟	教		體		務						

七十三	七十二	六十九	五十五	五十三	四十七	四十六	四十一	四十	三十九	三十三	三十	十七	十五
-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	-----	----	-----	-----	----	----	----

# 稻原村勢一班

稻原村役場編纂

## 第一位置

本村ハ日高郡ノ殆ンド中央部ニ位シ御坊町ヲ距ル東南二里二十餘町印南町ヨリ北方一里二十二町ノ地点ニアリ、北東ハ連山ヲ以テ丹生及ビ切目川ノ二村堺ヲナシ南ハ印南平野ニ連リ西南名田ノ村界ニハ高城黒岩ノ諸山聳エ西方ハ塩屋村ニ隣接セリ

## 第二地勢

周囲ハ概ネ連山ヲ以テ隣村ノ堺ヲナシ、全村ノ区域廣汎ニシテ山林多ク、水流コノ溪谷ヨリ出デ、耕地此間點在シ耕地ノアル所ニ部落ヲナス。一部ヲ除ク外ハ河水ヲ以テ水田ノ灌漑ヲナスコトナク溪谷ノアル所池アリ池アル所耕地アリ、両々相關聯シテ耕地ノ便ヲナセリ氣候温暖ニシテ良ク農作ニ適ズ

## 第三山岳

全村山多ケレドモ嶮シカラズ主ナルモノハ丹生、切目川、本村ノ三境上ノ庄谷山（三〇〇米）ハ真

妻山脈ヨリ来リ西走シテ丹生ノ村界ノ寺山（二三六米）講山（一八三米）アリ、此諸山ハ村ノ極北ニ位シ眼界廣濶ニシテ南ハ全村ヲ一眸ノ裡ニ収メ北ハ丹生、矢田、藤田ノ諸村及ビ御坊町ヲ模糊ノ間ニ眺見スルヲ得ベシ、一ハ山脈南ニ走リテ村ノ中央ニ橋兔山（一八三米）青垣内山（二二四米）及ビ琴平山（一一三米）アリ名田ノ村界ニハ高城山（二四〇米）湯上山（二四〇米）アリ、全村至ル所松林多ク初冬ノ候ハ松茸ノ算出夥シク近時松茸狩リニ遠近ヨリ来タリ集フモノ多シ

#### 第四 河 川

印南川及ビ塩屋川ノ二川ノ水源ハ本村ヨリ發ス。印南川ハ本村印南原字糸卷ヨリ發シテ南微西ニ流レ字川口ニテ白川池谷ヨリ發シテ中越字の場及ビ鳥巢ヲ過ぎ来レル支流ヲ合シテ字落合ニ至ル又一ハ字西谷ヨリ發シ柳畑ヲ經テ字落合ニテ東西ノ支流ヲ合シテ字瀧ノ口ニ至リ又奈良井谷ノ支流ト共ニ四條ノ支流ヲ合シテ南西ニ流レ大字山口ヲ經テ印南川トナル。王子川ハ本村大字立石字池尻ヨリ發シ西流シテ明神川ニ至モ一ハ大字南谷字境松ヨリ起リ西流シテ造木、蕨野、六反ヲ經テ塩屋村ノ村界ニテ南北ノ支流ヲ合シテ塩屋村ニ入り王子川トナル

#### 第五 池 沼

二百八十有餘町歩ノ水田ヲ灌漑スルニ殆ド池ヲ以テス。村内ノ溪谷ノアル所池アリテ灌漑ノ用ヲナセリ、村内溜池數三百五十有八、ソノ反別十九町八反六畝十九歩、堤塘四町六反四畝七歩ナリ今主ナルモノヲ（三反歩以上）ヲ列記スレバ左ノ如シ。

全	明神川	南谷	立石	全	全	印南原	大字
深山	堂ノ原	大谷	池尻	糸巻	向イ平	尻掛川	字
深山谷	大池	藤ヤ谷池	長池	糸巻池	外内池	尻掛川池	通称
七 五二九	四 一一九	三 三〇四	四 六二二	三 三〇四	七 九〇二	五 一一九	二 五反五〇〇
全	全	全	全	明神川	全	南谷	大字
茅谷	土垣内	境松	松山	宇津木谷	八粟	坂井谷	下此郷
茅ノ谷池	日高谷池	境松池	松山ノ池	宇津木谷池	井戸ノ谷池	坂井谷池	此郷谷池
三 七〇〇	三 八二二	四 七〇一	四 三三三	七 五〇四	五 二二五	三 七〇三	三 反九〇五

就中尻掛川池ハ萬治年間郡奉行福富市兵衛見立ヲナシ印南中村宇杉西山口ノ為メ築造セルモノニシテ當時ノ大サ百二十間横巾ハ三十間ト記セリ。明治二十七年十月起工増築ヲナシタルヲ以テ現在ノ周圍十八町三十二間此ノ実測面積七町九段四畝十八歩ニシテ此池ニヨリテ灌漑スルハ二ヶ町村ニ跨リソノ耕地面積ハ約六十町歩ナリ（尻掛川池ノ実測反別ハ前表ト甚ザシキ差異アリ）

## 第六 面積

本村ノ面積ハ一、九六方里ニシテ東西一里三十町南北二里十五町余ナリ。之ヲ土地台帳面反別以テ表ストキハ左ノ如シ（直線ニテ一里二十五町余ナルベシ）

田	二百八十三町八反歩	原野	九反歩
畑	八十八町五反歩	雑地	一反歩

宅地 四万八千〇二十六坪七合六勺 溜池 十九町八反六畝十四歩  
 山林 千四百十九町七反歩 堤塘 四町六反四畝七歩

### 第七 人口・戸數

本村ニ始メテ人類ノ居住シタルハ何時頃ナリシヤ今考定ニ由ナキモ近時遺物ノ発掘ニヨリテ人類学上所謂石器時代ノ住民ガ本村ノ一部ニ蟠據セシコトヲ確メ得タリ。先年山口ヨリ石器時代ノ石斧石棒ノ叢見ニヨリ是ノ住民ガ沿岸地方ニ居住セシコトヲ知ル。中古ノ状ハ詳カニ知ヲ得ザルモ今紀伊續風土記及ビ日高郡誌ヨリソノ概略ヲ記シ條ヲ遂ツテ現在ヲ述ブルコトトセリ

中古ハ村名トシ現在ハ大字名	日高鑑所載戸數	紀伊續風土記所載戸數	明治四十四年末現在戸數
但シ山口ハニヶ村ヲ一字トス	人口	人口	人口
印南原	一三九	二四六	二五九
東山口	五九九	一一四一	一三三七
西山口	二二四	五七	八二
立石	一四八	二四九	四二一
明神川	四三	四〇	
南谷	一六	一九八	
	七四	二〇	
	三七	七六	
	一二九	七二	
	五五	二九四	
	一九五	六〇	
		二七三	

合併

### ▽最近本籍現住戸數人口

昭和四年二月末日現在

本籍 本籍人口 入寄留出寄留 現住 現住人口  
 戸數 男 籍 人 口 男 女 男 女 男 女 男 女

七一〇 二〇〇五 一〇八一 五五 五三 五九五 四八四 五二七 一四六五 一三七七  
 計 三八一三 一〇八 一〇七九 五二七 二八四二

▽最近大字別戸数人口及現在戸数人口

大字	本籍戸数		戸数		人口		現住戸数		現在人口		戸数		人口	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
大山	一〇八	三二六	三〇五	六三一	八九	四八〇	二四七	二二三	一〇八	三九一	七一九	二三四	一〇八	三九一
印南	三六三	九三五	八五三	一七八八	二五八	一〇八	二〇〇	一〇八	三九一	七一九	二三四	一〇八	三九一	
立石	二七	一〇三	九三	一九六	二〇	一〇八	二〇	一〇八	三九一	七一九	二三四	一〇八	三九一	
明神	八八	二五〇	二二三	四七三	七五	四〇五	二〇九	一九六	二〇九	一九六	二〇九	一九六	二〇九	
南谷	一二四	三九一	三三四	七二五	八五	四〇五	二〇九	一九六	二〇九	一九六	二〇九	一九六	二〇九	
計	七一〇	二〇〇五	一八〇八	三八一三	五二七	二八四二	一四六五	一三七七	一四六五	一三七七	一四六五	一三七七	一四六五	一三七七

▽最近本籍人口動態

年次	出生		死亡		婚姻		離婚		其他	
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
昭和四年末	四三	五四	一	一	三〇	三〇	六	六	一	一
計	九七	一〇九	二	二	六〇	六〇	一二	一二	二	二

▽最近現住者職業別

種別	農業		工業		商業		公務及自由業		雜業	
	兼業	専業	兼業	専業	兼業	専業	兼業	専業	兼業	専業
計	四七七	四六一	二二	一六	五〇	三〇	二四	〇	〇	〇

第八 沿革

中古郷制度施行當時ハ本村ノ大部ハ石湊郷二一部ハ餘戸郷二属セシモノ、如シ、爾来郷名自然ニ廢

滅シテ旧藩制ノ頃印南原及東西山口村ハ印南莊ニ立石村明神川村南谷村ハ山田莊ニ属シテ共ニ南谷組ニ入レリ（當時各組ニ大庄屋ヲ置キ各莊ニ庄屋ヲ置キテ諸事統管シタリキ）

當時ノ六ヶ村ノ家數四百九十五軒、人数二千二百三十一人米高二千二百七十一石八斗五升四合ナリ（紀伊續風土記ニ依ル）

徳川氏大政ヲ奉還シテ明治維新ノ大業成リ旧幕時代ノ政治組織全テ一変シテ組及莊ヲ廢シテ明治五年大小区制ヲ定メラレ本村ハ第六大区第七ノ小区ニ編入セリ。然ルニ明治十一年七月太政官布告第十七号ヲ以テ郡区町村編成法ヲ發布セラレ、区ヲ廢シテ郡ヲ置キ一村又ハ數ヶ町村ニ一戸長ヲ置キ諸務ヲ掌リタリシモ明治二十一年四月ニ至リ明治天皇地方共同ノ利益ヲ發達セシメ衆庶臣民ノ幸福ヲ増進スル事ヲ思召サレ隣保團結ノ旧慣ヲ尊重シ益々之ヲ伸張シ更ニ法律ヲ以テ郡市及町村ノ權義ヲ保護アラセ給フ御主旨ニ依リ法律第一號ヲ以テ市町村制ヲ發布セラレ本縣ノ明治二十二年四月一日ヨリ之ヲ実施スルコトトナリ同年一月縣令十二号ヲ以テ町村ノ廢置分合發表セラレタル。本村ハ茲ニ於テ印南原、立石、明神川、南谷ノ四ヶ村及以前印南浦ニ属セシ東西山口村ノ六ヶ村ヲ合シテ村名ヲ稻原ト名ケ初メテ村會議員ヲ選舉シ續イテ助役村長及書記二名ヲ選ミ更ニ収入役ヲ選舉シテ茲ニ初メテ完全ナル自治体ノ基礎ヲナスニ至レリ。

初代ノ村長、助役、収入役、書記村會議員左ノ如シ

村長	岡本英秋	明治二十二年五月廿九日	就職
助役	野尻庄左衛門	全 年五月 七日	〃
収入役	夏見傳兵衛	全 年六月 一日	〃
書記	岡 謹造	全 年四月十八日	〃

全 中 智 昌 行  
村 會 議 員

明治二十二年四月十八日 就 職

青 木 長次郎	平 田 重 藏	弓 倉 藤 助	裏 岡 善 七
山 西 藤 七	夏 見 伊 助	岡 謹 造	平 野 理 吉
出 口 吉 助	楠 本 久 兵 衛	津 井 田 長 助	三 木 楠 松

尔以来年ト共ニ諸般ノ組織整頓シ交通ノ便大ニ拓ケ産業ノ發展期シテ俟ツベキモノアリ。

## 第九 交 通

本村ハ其区域廣汎ニシテ、周圍數ヶ村ニ連接セルニ嘗テハ交通機關ニ乏シク村民ハ此ノ不利不便ノ下ニ幾多ノ年月ヲ経其ノ生産セル一粒一果ヲ常ニ天秤棒ヲ以テ數里ノ道ヲ御坊印南ノ兩町ニ運ビ漸クニシテ鬻グノ状ニテ其ノ不便ハ元ヨリ産業ノ發達ヲ沮止セラレシコト久シク從テ村民ノ經濟マタ不振ナリキ

村當局是ニ意ヲ致シ、道路ノ改修ヲ企画シ、當時尙交通機關ニ對スル理解ニ乏シク、加フルニ貧弱ナル村財政ヲ以テシテ事業ノ達成至難ナリシヲ拘ハラズ村民ニ諮リ、漸クニシテ明治四十二年大決斷ノ下ニ印南切目川線ノ改修ニ着手シ尔來改修ヲ續行スルコト十數ヶ年其ノ間幾多ノ風浪ヲ凌ギ昭和二年度ニ漸ク其ノ彼岸(悲願か?)ニ達スルヲ得タリ

現今村役場ヲ基点トシテ二里二十四町ニシテ御坊町ニ至ルベキ縣道稻原北塩屋線ヨリ十六里六町ニシテ龍神村ニ達スルヲ得ベシ又印南へハ一里二十二町寒川へハ十二里二十町ノ縣道寒川印南線アリ

(寒川印南線ハ大正十二年四月一日告示縣道ニ編入セラレ稻原北塩屋線ハ大正十三年十一月一日告示縣道ニ編入セラレ

タル也)

其他北塩屋高城線 印南川中線(寒川印南線重用) 印南切目川線 塩屋川中線、稲原鐘卷線ハ皆本村ヲ中心トシテ各要所ニ達スルヲ得ベク其ノ他村内ノ支線ヲ改修シテ到ル所トシテ車道ヲ通ゼザルナリ輕捷ナル人車ヲ走ラレタ鞋底亦一層輕キヲ覺ユルニ至レリ。(道路延長及改修ノ狀況ハ土木ノ條参照)

從テ沿岸及山間部各町村ト聯絡ヲナシ物資ノ集散円滑トナリタリ加フルニ近年紀勢鐵道敷設セラルヽニ當リ本村ヲ通過シ且ツ停車場ヲ設置サラル。今ヤ其路線ヲ完成シ村民ガ此ノ文明ノ惠澤ノ響キ汽笛ノ初聲ヲ耳ニスルノ日目睫ニ迫レリ

## 第十 通信

一、稲原郵便局 位置 稲原村大字印南原四八七九番地

明治八年十二月一日出口吉助氏ニヨリテ本村大字印南原字出口三三七六番地ニ初メテ印南原郵便局ヲ開設シテ郵便事務ヲ開始セリ。同十八年五月十日貯金事務ヲ開始シ同二十三年四月一日稲原郵便局ト改称ス。同二十九年七月一日郵便為替及外國為替事務ヲ開始同三十三年四月一日電報為替事務ヲ開始シ、同三十二年五月二十八日現在ノ位置ニ移轉シタリ。次ニ同三十三年七月一日郵便小包ノ取扱ヲ開始シテ通信上利便ナリシモ明治四十二年三月三十日從來ノ集配及通信事務ヲ丹生印南ノ兩局ニ移リテ無集配局トナリ從テ通信上不便ヲ感ジタリシモ大正十一年十二月二十六日電信及電話事務ヲ開始茲ニ通信機關ニモ一新紀元ヲ劃スルニ至レリ

今歴代ノ郵便局長其他ノ取扱状況ヲ列記スレバ左ノ如シ

▽歴代ノ郵便局長

氏名	就職年月日	退職年月日	在任年数
出口吉助	明治八年十二月一日	明治廿五年一月十二日	十六年二ヶ月
夏見傳之助	〃二十五年一月一日	〃廿八年十二月一日	四カ年
笠野梅太郎	〃二十八年十二月五日	〃四十年十二月十二日	十二カ年
笠野雄二郎	〃四十年十二月二日	〃四十二年十二月十一日	二年十一月
三木任楠	明治四十二年十二月十一日	大正元年十月七日	五年十一月
山西菊次郎	大正元年十月七日	〃〃	〃
新田井幾次郎	〃〃	〃〃	〃
川口次平	昭和四年九月廿八日	昭和四年九月廿八日	〃

▽郵便

昭和四年十二月末日現在

昭和年次	種別	引受総数	通常郵便	小包郵便	引受総数	窓口受附
昭和二年	〃	五五五	一五	四九八	九三	〃
昭和三年	〃	七一〇	二一	五一八	九五	〃
昭和四年	〃	五五四	一〇	四〇一	四九	〃

▽為替貯金及振替貯金

昭和四年十二月末日現在

昭和年次	種別	振出及受入金額	口数	拂渡及拂戻金額	口数
昭和二年	為替貯金	一三三〇八円七四〇	四五六	一三五二三元九六〇	四二七
〃	振替貯金	三九〇五二円一六〇	四六二	二六八二二円〇六四	六三二
〃	為替貯金	六七八二円八九	四一四	一一四〇三元八二〇	五三一
〃	振替貯金	一四〇八六円四九〇	六三九	一一九六八円六九〇	三八三
昭和三年	為替貯金	三四一四八円五五〇	二二二	二五三五九円五〇六	七一〇
〃	振替貯金	四一四二二円五二〇	四四一	二〇三六円三三〇	七四八
〃	為替貯金	五四二二二円〇〇	四七九	九七三九円九〇〇	三七八
〃	振替貯金	一二九三二円〇五〇	二二九	二五一一二六円三七〇	六八一
昭和四年	為替貯金	四二五七一七円二九〇	二二九	二五一一二六円三七〇	六八一

▽電 信

振替貯金 五五〇八円〇四〇 三六二 三〇三八円四三〇 五四

着信	大正十一年	大正十二年	大正十三年	大正十四年	昭和元年	昭和二年	昭和三年	昭和四年
発信	一二七	五五三	六一六	五八二	六二〇	七三七	七三七	六二四
	二二二	一一一七	一一五六	一一四二	一〇五六	一二六七	一二六五	一一九

▽最近三カ年ノ電報月別発着表

昭和四年十二月末日現在

年次月別発着	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月
昭和二年	一五〇	一四七										
着テ調査不能	一一三											
三年	一〇二	一一九										
着	八二											
四年	四三	六一										
着	八四	一一六										

▽電 話

昭和四年十二月末日現在

年度区別	加入者発通話時数	非加入者発通話時数	非加入者発呼出	前納通話券送達通数
大正十一年	三五八	四二	四二	一一二二
〃十二年	一二四六	八九	八九	四一九
〃十三年	一三九三	九五	九五	四一一
〃十四年	一六四五	九二	九二	五二一
昭和元年	一六九〇	九六	九六	五二五
〃二年	二〇三八	八〇	八〇	五〇七
〃三年	二一二五	一一七	一一七	五五八
〃四年	一八九六	九二	九二	四三七

# 第十一 行政

一、稻原村役場

位置 稻原村大字印南原

四四八八四三  
八八四九ノ内一  
五四九〇号

番地

行政上ノ沿革ハ前項沿革ノ條下ニ詳説シタルヲ以テ茲ニ之ヲ省畧ス。明治二十二年大字印南原字落合四九九一番地ニ開設シ、大正三年三月十五日同字四九九七番地ノ一へ新築移轉セシモ過般紀勢鉄道敷設ニ當リ其ノ路線トナリ取除キヲナシ、更ニ昭和三年十月現今ノ位置移轉シタリ

本村ノ吏員及其ノ他ノ職員左ノ如シ

村 長 (名譽) 助 役 (名譽) 収入役 (有給) 書記二名 (有給)

村會議員十三名 区 長 六名 区长代理 六名

今歴代ノ村長助役及其他現在ノ吏員職員左ノ如シ

▽歴代ノ村長

氏 名	就 職 年 月 日	退 職 年 月 日	勤 續 年 数
岡 本 英 秋	明治二十二年 五月 廿日	明治三十年 五月 九日	八ケ年
山 田 藤 七	〃 三十五年 五月 廿四日	〃 三十五年 五月 九日	四ケ年
夏 見 康 太 朗	〃 三十五年 五月 廿八日	〃 三十七年 七月 廿一日	一年
山 西 藤 七	〃 三十六年 九月 廿三日	〃 三十七年 一月 廿一日	五ケ月
夏 見 康 太 朗	〃 三十七年 二月 三日	〃 三十九年 十二月 十八日	二年 十 月
山 西 藤 七	〃 三十九年 十二月 廿六日	〃 四十一年 二月 廿一日	一年 二 月
笹 野 梅 太 郎	〃 四十一年 三月 十日	大正 五年 一月 十五日	七年 十 月
清 水 龜 藏	大正 五年 一月 卅一日	昭 和 五年 五月 廿六日	三年 五 月
夏 見 康 太 朗	〃 八年 一月 六日	昭 和 五年 一月 二十日	十一年 二 月

▽歴代ノ助役

氏名	就職年	就職月日	退職年	退職月日	勤続年数
野尻庄右衛門	明治二十二年	五月七日	明治廿五年	五月十三日	三ヶ年
夏見七郎	明治二十五年	五月十三日	明治廿七年	五月四日	二ヶ年
青木長太郎	明治二十七年	五月四日	明治卅一年	三月八日	三ヶ年十一ヶ月
岡謹造	明治卅一年	三月十一日	明治卅五年	三月十日	四ヶ年
夏見七郎	明治卅五年	四月廿一日	明治卅六年	三月三十日	一ヶ年
岡本英秋	明治卅六年	四月廿一日	明治卅九年	七月六日	四ヶ年
弓倉房楠	明治卅六年	四月十六日	明治卅九年	八月三十一日	四ヶ年
岡本宏一	大正四十年	四月十六日	大正四十年	八月十五日	四ヶ年
楠本彌助	大正四十年	八月四日	大正四十年	十二月十四日	四ヶ年
山本松之助	大正四十年	三月三日	現任	中	二年五ヶ月

備考 現在助役ハ大正九年三月十八日収入役就職シ同十二年一月十九日ノ上三月三日助役就任セリ

▽収入役 書記

職名	氏名	就職年	就職月日	備考
収入役	湯川熊右為門	大正八年	八月一日	大正十三年二月三日退職
書記	中榎村新太郎	昭和二年	一月一日	現職

▽村会議員

(昭和四年五月二十日選挙)

氏名	新旧	氏名	新旧
東 萬太郎	新	楠本 雄次郎	新
中 順太郎	旧	北谷 熊吉	新
北 徳松	旧	岡 貞太郎	旧
小山 徳太郎	旧	花光 徳次郎	旧

▽大字区長及区長代理



溜池 十七町四反七畝九歩

提塘 三町三反三畝二十歩

四百四十九坪五合小学校建物十五株（棟か？）

▽基本財産ノ造成ト其ノ管理状況

大正四年部落有林四百八十一町余歩ヲ統一シ、内約百町歩ハ、統一条件ニ依リ道路ノ改修其他ノ費用ニ充ツルタメ賣却シ、其ノ残地三百八十餘町歩ノ内百二十八町歩ハ村直営地トシテ第一期施業要領ニ基キ大正七年度ヨリ大正十二年度マデ扁柏、杉、楊梅、松樹ノ植林ヲ行ヒ、内百三十町歩ハ地上權地トシテ管理ヲナシツゝアリ。統一後日尚淺キヲ以テ何レモ未ダ收益ヲ見ルニ至ラズ。内約百三十町歩ハ入會地トシテ所在部落民ノ柴草採取地トナシ内約十町歩ハ近年養蚕其他農業ノ發達ニ伴ヒ耕地ノ不足ヲ生ズルニ至リシヲ以テ先ニ之ヲ開墾地トシテ施業要領案ノ變更許可ヲ經テ一般ノ小農者ニ貸付シ目下開墾ヲナシツゝアリ。

現金ノ蓄積ニ付テハ大正十二年度及昭和三年度ノ二回ニ涉リ村基本財産蓄積條例ノ大改正ヲ行ヒ從來ノ消極的蓄積方法ヲ改メ積極的蓄積方法ヲ定メ左記ノ収入ヲ基本財産ニ蓄積スルコトヽシ、基本財産ヨリ生ズル収入ヲ以テ村經常費ヲ支へ得ル限度迄蓄積スル方針ナリ。

更ニ大正十年小学校基本財産ノ蓄積條例ヲ設定シ、左記収入ヲ之ニ蓄積シ、其収入ヲ以テ小学校經常費ノ半額ヲ支へ得ル限度迄ニ達セシムル目的ノ下ニ目下専ラ之ガ増殖ニ努メツゝアリ、而シテ前記財産ハ何レモ本村財産管理規定ニ基キ管理ヲナシツゝアリ

○左記収入ハ村基本財産ニ蓄積ス

1. 歳計決算剰餘金ノ五分ノ一 但シ事業費繰越ニ伴フ支拂差額及繼續事業費支出殘額ヲ除ク
  2. 基本財産ヨリ生ズル収入
  3. 徴収費ニ属スル國庫交付金及縣交付金
  4. 戸籍ニ関スル手数料
  5. 手数料條例ニ依ル各種ノ手数料及督促手数料
  6. 指定寄附金
  7. 臨時ノ収入ニシテ使用ノ目的ヲ定メザルモノ
- 以上

○左記収入ヲ小学校基本財産ニ蓄積ス

1. 小学校基本財産ヨリ生ズル収入
  2. 授業料
  3. 小学校不用品賣却代
  4. 指定寄附金
- 以上

▽村基本財産増加表

(昭和五年三月末現在)

年次	反土別	價格	有價証券	現金	年度末現在
大正 五年度	四八二五反九〇三	一九二六四円	〇円	一九八四円七二一	二二二四八円七二一
〃 六年度	四八一五反九〇三	二四〇八〇円	〇円	七〇九円八一	二四七八九円八一
〃 七年度	四八一五反九〇三	二八八九六円	〇円	七〇一円三八一	二九五九七円三八一
〃 八年度	三八八五反〇二九	二七一九五円	〇円	一二七二円六五〇	二八四六七円六五一
〃 九年度	三八八五反〇二九	三一〇八〇円	〇円	九三二円二二一	三〇〇一二円二二一
〃 十 年度	三八八五反〇二九	三四九六五円	〇円	一〇三三円九九一	三五九九五円九九
〃 十一年度	三八八五反〇二九	三八八五〇円	一〇〇〇円	一九四七円六六一	四一七九七円九九
〃 十二年度	三八八五反〇二九	四二七三五円	二〇〇〇円	二二〇六円一一	四六九四一円一一
〃 十三年度	三八八五反〇二〇	四六六三〇円	二〇〇〇円	三六四九円〇七一	五六二六九円〇七一
〃 十四年度	三八八五反〇二〇	五〇四四〇円	二〇〇〇円	四八七七円〇五一	五七三一七円〇五一
昭和 元年度	三八八五反〇二〇	五四三九〇円	二〇〇〇円	六四一六円五一	六二八〇六円五一
〃 二年度	三八八五反〇二〇	五八二七五円	二〇〇〇円	八四〇〇円一八一	六八六七五円一八一

昭和 三年度	三八八五反〇二〇	六二二六〇円	〇円	〇円	一二五一五円二二一	七四六七五円三二一
昭和 四年度	三八八五反〇二〇	六二二六〇円	〇円	〇円	一四一三五円二六一	七六二九五円二六一

▽小学校基本財産増加表

(昭和五年三月末現在)

年次	土反別	地価	有價証券額	時價	現金	年度末現在
大正十 年度					一三〇円〇〇〇	一三〇円〇〇〇
昭和 十一年度					三九八円六〇〇	三九八円六〇〇
昭和 十二年度					五九二円八四〇	五九二円八四〇
昭和 十三年度					七六九円四七〇	七六九円四七〇
昭和 十四年度					一〇一円八二〇	一〇一円八二〇
昭和 元年度					一二五九円三七〇	一二五九円三七〇
昭和 二年度					一五二四円七五〇	一五二四円七五〇
昭和 三年度					一八六〇円八六〇	一八六〇円八六〇
昭和 四年度					二〇八三円五九〇	二〇八三円五九〇

▽最近役場事務處理件数

( 全 上 )

年次種別	授庶受	發務送	授會受	發計送	授戸受	發籍送
大正十四年	一四一一	一一九八	五三一	三四二	五一七	一八三
昭和 元年	一三〇七	一一〇八	四二六	三五三	五〇四	一九七
昭和 二年	一六〇三	一三九〇	六九八	三七六	五八六	一九二
昭和 三年	一六三七	一三七三	六八三	三八四	五九八	二〇六
昭和 四年	一五八七	一三六六	六七三	三八一	五九二	二一〇

▽最近國縣稅村稅徵集調

年次種別	國稅	縣稅	村稅	總計
大正十四年	八三六一円一五〇	一四四六八円五二〇	一五四二〇円九九〇	三八二五〇円六六〇
昭和 元年	七六四一円二五〇	一五五三四円五七〇	一五七三〇円九一〇	三八九〇六円七三〇
昭和 二年	七三〇三円一三〇	一三三一八円三八〇	一七九八四円一九〇	三八六〇五円七〇〇

昭和三年	六九三九円一六〇	一三四七五円五八〇	一五五一円三二〇	三五九二六円〇六〇
昭和四年	六六一六円九二〇	一二四四八円三七〇	一六〇三二円三七〇	三五〇九七円六六〇

▽最近本村歳入歳出決算額調

年次種別	歳入	歳出 經常部	歳出 臨時部	歳出 合計
大正十四年	二〇七七一円四七〇	一六四三六円八四〇	一八六二円二四〇	一八二九九円〇八〇
昭和元年	二七四六四円四五〇	一九二〇五円七四〇	五五一九円一四〇	二四七二五円三一〇
昭和二年	三五一二四円六一〇	二三四九九円八八〇	六五九七円二二〇	二九〇五七円一〇〇
昭和三年	三五八六三円六四〇	二二二九九円〇一〇	一一〇二七円五五〇	三三三二六円五六〇
昭和四年	二五八〇八円二三〇	二一九九一元〇二〇	二二三四円八三〇	二四三二五円八五〇

▽納税成績(其一) (國税)

年 度	調 定 額	納期限内収入額	同上歩合	納期限後収入額	同上歩合	翌年度繰越又ハ欠損額	同上歩合
大正十三年度	八三三一円一七〇	八三三一円一七〇	一〇〇一				
大正十四年度	八三六一円一五〇	八三六一円一五〇	一〇〇一				
昭和元年度	七六四一円二五〇	七六四一円二五〇	一〇〇一				
昭和二年度	七三〇三元一三〇	七三〇三元一三〇	一〇〇一				
昭和三年度	六九三九円一六〇	六九三九円一六〇	一〇〇一				
昭和四年度	六六一六円九二〇	六六一六円九二〇	一〇〇一				

▽同上(其二) (縣税)

年 度	調 定 額	納期限内収入額	同上歩合	納期限後収入額	同上歩合	翌年度繰越又ハ欠損額	同上歩合
大正十三年度	一三八八八円三九〇	一三八八八円三九〇	一〇〇一				
大正十四年度	一四四六八円五二〇	一四四四二円二四〇	〇・九九八	二六円一八〇			
昭和元年度	一五五三四円五七〇	一五五三四円五七〇	一〇〇一				
昭和二年度	一三三一八円三八〇	一三三一八円三八〇	一〇〇一				
昭和三年度	一三四七五円五八〇	一三四七五円五八〇	一〇〇一				
昭和四年度	一二四四八円三七〇	一二四四八円三七〇	一〇〇一				

▽同上(其三) (村税)

年 度	調 定 額	納期限内収入額	同上歩合	納期限後収入額	同上歩合	翌年度繰越又ハ欠損額	同上歩合
大正 四年度	四七〇〇円二五〇	四七〇〇円二五〇	一〇〇一				
〃 五年度	五九〇八円〇九〇	五九〇八円〇九〇	一〇〇一			一円五六〇	〇・〇二弱
〃 六年度	六二四七円六一〇	六二四六円〇五〇	九九・九八			一円五〇〇	〇・〇二弱
〃 七年度	七八〇一円九二〇	七八〇〇円四二〇	九九・九八				
〃 八年度	一一七二二円七二〇	一一七二二円七二〇	一〇〇一				
〃 九年度	一六三九〇円九九〇	一六三九〇円九九〇	一〇〇一				
〃 十年度	一六〇〇一円九六〇	一六〇〇一円九六〇	一〇〇一				
〃 十一年度	一六八二二円七二〇	一六八二二円七三〇	一〇〇一				
〃 十二年度	一四一四四円二〇〇	一四一四四円二〇〇	一〇〇一				
〃 十三年度	一五四五五円六〇〇	一五四五五円六〇〇	一〇〇一				
〃 十四年度	一五四二〇円九九〇	一五四二〇円九九〇	九九・八七		二〇円九四〇	〇・一三	
昭和 元年度	一五七三〇円九一〇	一五七三〇円九一〇	一〇〇一				
〃 二年度	一七九八四円一九〇	一七九八四円一九〇	一〇〇一				
〃 三年度	一五五二二円三二〇	一五五二二円三三〇	一〇〇一				
〃 四年度	一六〇二二円三七〇	一六〇二二円三七〇	一〇〇一				

▽最近本村費 小学校校費比較表

年 度	村費歳出決算額	小学校費可決等額	同上対村費比率	教育費国庫下渡金	同上対学校費比率
大正十三年	二五〇〇一円四八〇	九一五三円三八〇	〇・三六六	二〇五三円五五〇	〇・二二五
〃 十四年	一八二九九円〇八〇	九五九八円〇四〇	〇・四六九	二〇九三円〇二〇	〇・二四六
昭和 元年	二四七二五円三一〇	九六一九円五六〇	〇・三八八	三四八二円〇九〇	〇・三五六
〃 二年	二九〇五七円一〇〇	一〇八九六円五六〇	〇・三七三	四〇〇三円一〇〇	〇・三六七
〃 三年	三三三六二円五六〇	一一九六三円五七〇	〇・三五六	四〇〇一円五二〇	〇・三三六
〃 四年	二四三二五円八五〇	一二六一五円〇一〇	〇・五二〇	四三八三円二一〇	〇・三四七

▽學校数(教か?) 員俸給額調

(昭和 五年 六月 一日現在)

學校数	学級数	教 員 数	年 俸 額	月 額	給 高	最 低	平 均	教育費一戸平均負擔額	教育費兒童一人對スル負擔額
三	一五	一一四	九八九一円二〇〇	八二四円二五	九〇円一	三三円一	五四円九五	二二円九四弱	二二円八八弱

# 第十三 教育

徳川李世ニ於ケル教育ハ寺子屋アリテ学童ヲ寺子ト称シ入学スルヲ寺入りトイヒ、教師ヲ師匠ト唱ヘタリ。師匠ハ概ネ僧侶ニシテ校舍ハ僧侶<sup>ツツ</sup>ハ寺院ニ其ノ他ハ各自ノ宅ニ於テ習字珠算ヲ教ヘタリ。

明治四年廢藩置縣ト共ニ全国教育ノ統一機関トシテ文部省ヲ設定セラレ、尔来凡ソ一年間ヲ閱シ廣ク泰西各国ノ教育制度ヲ調査参酌シテ、五年八月著名ノ学制ヲ頒布セラレ、我ガ國教育ノ基礎茲ニ定マル。本村ハ九年寺院ヲ假校舍トシ印南原、南谷ノ二校ヲ創立シ、十年更ニ山口校ヲ創立シテ、教師ハ僧侶之ニ當リ茲ニ本村教育ノ基礎ヲナスニ至レリ。

今寺子屋時代ヨリ本村ノ教育ノ狀況ヲ表ニ依テ列記シ各校ノ沿革及其他ノ狀況ヲ各校ノ條下ニ記載スルコトトセリ。

## ▽寺子屋時代

日本教育史資料所載

名称	学科	所管	位置	開業	廢業	教師	生徒	調査時代	身分	師匠氏名
	習字	和歌山領	印南原村	安政元年	明治五年	一			僧侶	野澤 祐賢
"	"	"	"	"	"	"	"	"	僧侶	平野 久吉
"	"	"	南谷村	"	"	"	"	"	僧侶	榎 正顕
"	"	"	"	"	"	"	"	"	僧侶	岡 去隆
"	"	"	明神川村	"	"	"	"	"	僧侶	中智 用助
"	"	"	山口村	安政二年	"	"	"	"	僧侶	依岡 要助

## ▽明治初年時代

全 上

学 科	所管	位置	開業	廢業	教師	生徒	調査時代	身分	師匠氏名
讀、書、習字、算術	若山領	印南原村	明治二年	明治五年	一	五〇	明治初年	僧侶	專福寺諦巖
"	"	南谷村	"	"	一八	"	"	"	明應寺正頭



以上本村三校ノ狀況ヲ校別ニ列挙スレバ左ノ如シ

一、稲原尋常高等小學校

位置 稲原村大字印南原四九五八番地ノ二

明治九年八月一〇日創立富山小學校ト称シ專福寺ヲ以テ仮校舎トス、明治十六年今ノ本村役場ノ所在地ニ新築シタリ。同二十年四月新令ニ據リ印南原小學校ト称ス。三十六年七月現校舎ヲ新築三十九年高等科ヲ併置シ現在ノ校名ニ改称セリ。翌四十年校舎ヲ増築シ、尔来人口ノ増加ヨリ校舎ノ狹隘ヲ告グルニ至リシヲ以昭和二年十二月工ヲ起シ經費八千八百餘圓ヲ投ジテ建坪一百二十坪ノ校舎ヲ増築シ引續キ運動場ヲ校舎ノ東ニ土地ヲ買収シテ移轉シタリ。現在校舎三棟此ノ建坪二百八十二坪、一〇教室ナリ

▽今歴代ノ校長及就任轉任ノ月日ヲ列記スレバ左ノ如シ

氏名	就任年	月日	轉退年	月日	在任年数
山田 諦巖	明治九年	八月	明治十五年	八月	六ケ年
坂本 橋太郎	明治十六年	一月十日	明治十六年	十二月	一ケ年
島田 新三郎	明治十七年	三月	明治二十年	九月	三年 六ケ月
山下 正孝	明治二十年	九月	明治廿八年	八月	七年 十一ケ月
政井 徳松	明治廿八年	八月卅一日	明治卅一年	六月(?)	二年 十ケ月
松本 信亮	明治三十年	一月十二日(?)	明治卅三年	五月 五日	三年 四ケ月
西瀬 又次郎	明治卅三年	五月 五日	明治卅七年	四月 十日	三年 十一ケ月
寺本 堯雄	明治卅七年	四月 十日	明治四十一年	十一月 十七日	四年 十一ケ月
高尾 英吉	明治四十一年	十一月 十七日	明治四十四年	三月 廿五日	一年 五ケ月
松山 政吉	明治四十四年	三月 廿五日	明治四十五年	三月 二十日	二ケ年
岩崎 信之助	明治四十五年	三月 卅一日	明治四十八年	三月 卅一日	四ケ年
鈴木 友一	大正八年	三月 卅一日	大正十四年	三月 卅一日	三ケ年
前田 周助	大正十四年	四月	大正十四年	四月	六ケ年
中尾 峯三	大正十四年	四月	現任	中	

政井氏ノ轉任ヲ日高郡誌ニハ三十二年七月トアリ何ニシテモ次代校長ト重複コト、トナル(芝口)





備考 昭和五年六月一日現在学齡児童数 九〇人 内 男三八人 女五二人  
 不就学 九〇人 不就学 〇 就学歩合 一〇〇―

學校開設以来本校卒業生徒数 三五三人

一、南谷尋常小学校 位置 稻原村大字明神川字西ノ前一三二番地

明治七年六月廿九日村落小学校ヲ起シ、全九年八月一日南谷明應寺ヲ假校舍トシテ小學ヲ設置ス、樹林小學ノ名ハ此ノ時ノ命名ナリ。後庄屋時代ノ米倉ヲ利用シテ假校舍トスルコトニケ年、同一五年横山丘ニ新校舍ヲ建築ス。全二十年四月簡易小学校トナリ、全二十三年尋常小学校トナリニ學級ニ編成シ更ニ四十二年増築シ三學級ニ編成シタリ現在校舍一棟此ノ建坪八十五坪四教室ナリ、外ニ附属舎二棟十六坪五合

▽今歴代ノ校長及就任轉任ノ年月日ヲ列記スレバ左ノ如シ。

氏名	就任年月日	轉退年月日	在任年数
榎 正 顕	明治 九年 八月 一日	明治 十八年 五月	八年九ヶ月
野 口 熊次郎	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	七年十ヶ月
山 田 秀 守	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	三ヶ月
岩 崎 岩 七	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	二年十ヶ月
古 田 伊 由	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	一年七ヶ月
眞 砂 多 計 記	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	二年八ヶ月
塩 路 信 亮	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	十一年十一ヶ月
野 田 豊 太 郎	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	三ヶ年
原 見 辰 助	大正 四年 三月 廿一日	〃 〃 〃 〃	二年七ヶ月
浜 崎 周 助	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	一年六ヶ月
平 井 源 之 助	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	三ヶ年
塩 路 吉 之 助	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	三ヶ年
橋 本 庫 之 助	〃 〃 〃 〃	〃 〃 〃 〃	五ヶ年



昭和三年	二〇	三一	九	二〇	三〇	九	一〇〇	九七・〇〇	一〇〇	六一・〇〇	七〇・〇〇	九〇・〇〇
昭和四年	二〇	二三	一二	一二	二三	一二	六〇	一〇〇	一〇〇	五四・八七	六二・三二	一〇〇

一、青年訓練所ノ狀況

大正十五年四月二十日敕令第七十号ニ基キ同年六月二十三日附本縣知事ノ認可ヲ得テ、稻原小学校ニ設置シ、同年七月一日開所シタリ。主事ハ稻原小学校校長兼任シ各校男教員ヲ學科指導員トシ在郷軍人分會員ヲ教練指導員トス。創設當時ノ主事ハ稻原小学校長中尾峯三氏ニシテ教練指導員ハ在郷軍人分會長山本新太郎ナリ。

現在ノ主事及指導員ハ左ノ如シ

主事 田中峯三  
指導員 平野幸男 花谷清太郎 岡本兵助

年次	種別入所該当者	入所者	同上歩合	出席歩合
昭和元年	五五	四九	八九・〇九	九二・二〇
〃二年	五九	四四	七四・五八	八〇・一七
〃三年	四八	四〇	八三・三三	八六・〇〇
〃四年	五八	四六	七九・三四	七四・〇〇

第十四 衛生

本村ノ衛生事務ノ主ナルモノ左ノ如シ

一、種痘

種別	善感	不善感
年次	初種	再種
大正十四年	八九	四四
	一	一二

昭和元年	八九	四四	一一	一二
昭和二年	七七	六二	一一	一五
昭和三年	八一	七四	一五	三五
昭和四年	七九	六二	一六	三六

二、小學校児童ノ腸寄生虫驅除豫防

小學校児童ニ対シ春秋二回海人草ヲ服藥セシメ腸寄生虫驅除豫防ヲ行フ

三、定期清潔法ノ施行

毎年七月中旬ヨリ下旬ニ互リ定期清潔法ヲ施行ス

本村傳染病豫防委員左ノ如シ

- 林 楠右衛門
- 原 吉助
- 東 藤松
- 楠 本雄次郎
- 榎 正因

▽死亡者年齢区別表

年齢	第一類 傳染性病		第二類 発育及榮養的病		第三類 皮膚病及筋病		第四類 骨及間接病		第五類 血行器病		第六類 神經五官		第七類 呼吸器病		第八類 消化器病		第九類 泌尿及生殖器病		第十類 外襲性変死		第十一類 中毒症		第十二類 原因不詳		計
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女			
一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
四年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
五年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
六年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
七年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
八年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
九年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十一年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十二年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
十三年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—

(年齢ノ順ヲ遂ハザルハ該当者ナキタナルカ 芝口)





▽耕作用牛馬頭數

牛 三二四      馬 一二      合計 三二六

全 上

▽農業調査結果表

昭和四年九月一日現在

種別	耕地總面積	田	畑總面積
總數	三七二反一〇七	二八三七反五二二	八八四反五二六
自作地	二三一九、六〇三	一六一二、一二九	七〇七、四〇四
小作地	一四〇二、五〇五	一二二五、三二三	一七七、一二二

種別	普通畑	樹木灌木栽培畑總面積	桑畑
總數	二四一反二二〇	六四三反三〇六	三五〇反七〇一
自作地	一八一、五〇二	五二五、九〇三	二六二、八〇九
小作地	五九、七一八	一一七、四〇四	八七、八〇四

種別	茶畑	果樹畑	其他ノ畑
總數	反一一七	一七〇反二二四	二二二反一二四
自作地	一一七	二四四、八二〇	一八、〇一六
小作地		二五、四〇四	四、一〇八

種別	柑橘畑
總面積	二〇二反六〇三
自作地	一八六反一一九
小作地	一六反四一四

▽産業奨励ノ施設及其狀況

一、稻原村農會

本村農會ハ本村内ニ於テ耕地ヲ有スル者及一畝歩以上耕作ヲナス者並ニ一枚以上蚕種掃立ヲナス者ヲ會員トシ村長ヲ會長トシ副會長一名評議員四名總代員二十六名ヲ以テ組織ス。

現在会長副会長評議員総代員左ノ如シ

會長 夏見 康太郎 副會長 山西 松之助 農會技術員 吉田 武雄  
評議員四名 岡本 卯助 楠見 竹之助 原 吉助 青木 熊藏  
村農會總代二十六名

岡本 龜藏 岡本 卯助 久保 万次郎 中家 四郎吉 夏見 源次郎 上山 力 田中 楠次郎  
原 吉助 原 元七 平野 榮輝 瀧川楠右衛門 古谷 清次郎 山西 峯太郎 小川 松太郎  
楠見 竹之助 橋詰 岩吉 佐藤 又助 東 藤松 楠本 雄次郎 中野 竹太郎 中村 新太郎  
青木 熊藏 下家 常吉 中出 関太郎 中野 熊三郎 榎 正 因

本會ノ經費ハ約二千元ヲ計上シ郡農會ノ補助及奨励金約三百元ヲ除ク外ハ全部會員ノ負擔トシ  
左ノ事業ヲ行ヒツヽアリ

イ、大正六年以來引續キ技術員ヲ設置シ一般農事ノ指導奨励ヲナス傍ラ毎年春秋三回養蚕講習會  
ヲ開催シ其ノ奨励ヲナス

ロ、米麥採種園ノ設置

米麥品種ノ改良ト増殖ヲ期スル為毎年上級農會ヨリ配布セラルヽ優良品種ヲ篤農家ヲシテ各  
一反歩以上ノ採種圃ヲ設置管理セシメ是ヨリ採種セル粃及麥ヲ買上ゲ各農事実行組合ヘ無料  
配布シ更ニ実行組合ヲシテ採種圃ヲ設置セシメテ之ヲ一般組合員ニ交換配布ナサシメ以テ優  
良品種ノ普及ト増殖ニ努ムル外相當ノ奨励方法ヲ講ジ苗代及稻增收品評會ヲ開催ス。

ハ、農作物害虫鳥獸駆除豫防ノ督励

稲作ノ害虫駆除ニ付テハ播種後絶エズ技術員ヲ巡視セシメ農事実行組合ヲ督励シ、電燈又ハ  
誘蛾燈ヲ一齊ニ点火セシメ捕蛾スル外苗代期ニハ奨励金ヲ交付シテ害虫駆除デーヲ定メテ全

村一齊ニ捕蛾採卵ヲナサシメ本田移植後モ引續キ励行シ、出穂後ハ枯穂切リヲナサシム。又火薬ヲ無償交付シテ一般農作物ヲ害スル鳥類ノ威嚇又ハ捕獲ヲナサシムル一面柑橘果樹桑等ノ害虫駆除ニ付テハ技術員ヲ派遣シテ消毒藥品ノ調合及駆除方法ノ実施指導ヲナス。

## 二、産米改良ノ奨励

産米ノ品質向上ヲ期スル為穀物検査員ヲ援助シ検査上ノ便利ヲ圖ルト共ニ毎年壹百円以上ノ経費ヲ計上シテ検査員給ヲ補給シ検査用ノ消耗品購入ヲナス

## ホ、自給肥料ノ奨励

金肥ヲ節約シ自給肥料奨励ノ目的ヲ以テ相当ノ補助金ヲ支出シ緑肥ノ共同購入ヲ斡旋シ且ツ堆肥舎ノ建設ヲ奨励ス

## へ、農産物ノ種子及農具ノ共同購入ノ斡旋

一般会員ノ希望スル農作物ノ種子ハ総テ良品種ヲ選ミ共同購入シ又農業経営上有利ナリト認ムル農具ノ利用奨励ト共同購入ノ斡旋ヲナス。

## ト、販賣方法ノ改善ト出荷組合ノ奨励

農家經濟ノ向上ヲ期スル為メ販賣方法ヲ改善シ大量生産品質ノ統一撰別ノ励行ヲ督励シ絶エズ本会ト市場及上級農会トノ聯絡ヲ図リ共同出荷ヲ行ヒツヽアリ。其成績何レモ良好ナリ現在左ノ三組合アリ

組合名称	設立年月日	組合員数	出荷品名	組合長氏名
山口農産物出荷組合	昭和二年九月十五日	四八	柑橘・西瓜・里芋・其他	岡本嘉祐

印南原 " " " " 元年八月 一日 二五 生果・松茸・蔬菜 川口 淨一郎  
 明神川 " " " " 四年十月 九日 六〇 松茸・筍・柿・柑橘 中村 新太郎

千、養蚕業奨励

農村経済ノ向上ヲ期スル上ニ於テ養蚕業ノ最モ有利ナルヲ認メ大正八年有志ニ諮リ稲原村養蚕同業組合ヲ設立シ殆ド本会ノ事業トシテ技術員ヲ督励シテ蚕種・蚕具・桑苗ノ共同購入苗ノ共同販賣ヲ行ヒツヽアリ。大正八年組合設立当時ハ掃立枚数一ヶ年ヲ通ジテ三十枚内外ニ過ギザリシガ、尔来異数ノ進歩ヲ見昨年度掃立枚数千百餘枚 其ノ收繭額七千数百貫其ノ價格五万円ヲ産シ主産物米ニ亜グ盛況ヲ呈スルニ至レリ。現今此ノ逐年増加セル本村ノ養蚕ヲ廣汎ナル稲原ヲ一圓トスル組合ヲ以テハ到底販賣其他事業ノ遂行ニ困難ヲ来スニ至リシヲテ山口・印南原・及西支部ノ三ツニ分チ益々發展ノ道ヲ講ジツヽアリ。

▽現在養蚕同業組合役員

稲原養蚕同業組合長 山西 松之助  
 印南原支部長 小川 松太郎  
 山口支部長 依岡 新六  
 西 支部部長 石野 久蔵  
 副支部長 野村 角二郎  
 副支部長 榎 正因

▽今本村養蚕組合成績ヲ列記スレバ左ノ如シ

年次	種別	飼育戸数	掃立枚数	数	量	價	価	單價
大正十二年	春蚕	一五六戸	一四〇	七九三、〇〇〇	一〇、三〇九	〇〇〇	〇〇〇	一三、〇〇〇
	夏秋蚕	六七	一七〇	六〇五、〇〇〇	五、五一三	〇〇〇	〇〇〇	九、三〇〇
" 一三年	春蚕	二五〇	一七六	九九〇、〇〇〇	七、五二四	〇〇〇	〇〇〇	七、六〇〇
	夏秋蚕	一〇九	二〇〇	八〇一、〇〇〇	七、九三〇	〇〇〇	〇〇〇	九、六〇〇
" 一四年	春蚕	二八一	二二一	一、一〇四、〇〇〇	一三、〇八二	〇〇〇	〇〇〇	一、八八五

大正一五年	夏秋蚕	二〇〇	二三一	一、六五〇、〇〇〇	一七、九〇二、〇〇〇	一〇、九〇〇
昭和元年	春蚕	三〇六	三〇〇	一、八〇八、〇〇〇	一五、七三三、〇〇〇	八、七〇〇
" 二年	夏秋蚕	二三〇	四〇四	一、五〇〇、〇〇〇	一二、〇〇〇、〇〇〇	八、〇〇〇
" 三年	春蚕	三一四	四〇〇	二、五五〇、〇〇〇	一八、八七三、〇〇〇	七、四〇〇
" 四年	夏秋蚕	三二〇	五四〇	二、八一六、〇〇〇	二四、六四三、〇〇〇	六、一〇〇
" 五年	春蚕	三五〇	五〇〇	三、一七七、〇〇〇	二三、六六六、〇〇〇	七、四〇〇
" 六年	夏秋蚕	三五七	五八〇	二、九四一、〇〇〇	一七、九四〇、〇〇〇	六、一〇〇
" 七年	春蚕	三五二	六七三	三、四三九、〇〇〇	二六、六四一、〇〇〇	七、一〇〇
" 八年	夏秋蚕	三六〇	六二〇	三、三五五、〇〇〇	二三、一四九、〇〇〇	六、九〇〇
" 九年	春蚕	三六〇	六二〇	三、九五七、〇〇〇	一六、二二三、〇〇〇	四、一〇〇

リ、農事實行組合

農事實行組合ハ農會ノ分身トシテ當業者十五名乃至三十名ヲ以テ一組合ヲ組織シ組合長ハ農會總代員之ニ当リ常ニ本會ト組合トノ聯絡ヲナシ各組合ニ組合長、副組合長、事業係、相談役ノ四名乃至六名ノ役員ヲ置キ前記本會事業ノ遂行ヲ援助スルノ外各組合内ノ土地其他ノ事情ニ適應セル事業ヲ計画実行シ、斯業發達ニ努力スルト共ニ組合ノ貯金及基金ノ蓄積ヲナシツゝアリ

▽現在ノ農事實行組合数 二八 組合員数 四九〇名ナリ

組合名称	組合員数	組合長氏名	備考
山口第一実行組合	二二	関文彦	
山口第三	一六	岡本卯助	
山口第五	一一	岡田左内	
瀧ノ口第二	一二	松本米蔵	
柳畑第一	一四	原吉助	
柳畑第三	一〇	井芝榮太郎	
南畑第二	一四	酒井勝太郎	
山口第二実行組合	二三	山口第四	
山口第一	一五	瀧ノ口第一	
瀧ノ口第三	一一	瀧ノ口第二	
柳畑第二	一四	柳畑第一	
南畑第一	一五	南畑第二	
小白川	二一	小白川	
依岡新六		依岡新六	
木下豊太郎		木下豊太郎	
西山英雄		西山英雄	
吉田庄右衛門		吉田庄右衛門	
廣野房助		廣野房助	
平野榮輝		平野榮輝	
野村英三郎		野村英三郎	

大白川	二四	津井田英一	中越第一	川口宇吉
中越第二	一七	小川松太郎	共栄	笹野傳吉
南涼	一四	生賀茂一郎	立石第一	山岡啓一郎
立石第二	一二	佐藤又助	石野谷	石野伴藏
明神川	二九	坂東久吉	中地	東岩吉
蕨野	一八	楠本儀平	樹林	岡貞太郎
峠谷	一一	谷野熊二郎	切山	岡出関太郎

▽本村農會最近五ヶ年収支決算

年次	金額	収入	金額	支出	金額	備考
大正一四年度	一、八三一、八六五	一、五七一、三九〇	一、七二三、九八〇	一、八三九、〇〇〇		
昭和元年度	一、八一四、三四五	一、七〇九、三四〇	一、六〇九、三四〇	一、五七一、〇〇〇		
昭和二年度	一、九二九、四〇五	一、八三九、〇〇〇	一、五七一、〇〇〇	一、八三九、〇〇〇		
昭和三年度	一、八五四、〇六五	一、五七一、〇〇〇	一、八三九、〇〇〇	一、五七一、〇〇〇		
昭和四年度	一、九七四、五六五	一、八三九、〇〇〇	一、五七一、〇〇〇	一、八三九、〇〇〇		

第十六 生産

一、農産物

本村農産物ノ主ナルモノ米麦ナリ。米ハ生産ノ約半額ヲ村内ニ消費シ、其残部ヲ附近町村ニ移出ス。麦ハ生産ノ全部ヲ消費スル程度ノモノナリ。今左ニ米麦ノ生産額ヲ年別ニ表シ其他ノ農産物ノ大要ヲ記スコトトセリ。

▽米

年次	作付反別	收穫	高	反當收穫	一石当單價	計金額
大正十四年	二九〇〇、〇〇〇	六三八〇石	〇〇〇	二石二〇〇	四〇円〇〇〇	二二五、二〇〇円
昭和元年	二九〇〇、〇〇〇	五二〇八、〇〇〇	〇〇〇	一、七〇〇	三八、〇〇〇	一九七、八九〇
昭和二年	二九〇〇、〇〇〇	五八〇〇、〇〇〇	〇〇〇	二、〇〇〇	三一、六〇〇	一七六、四〇〇

▽	麥	三年	二八五三、〇〇〇	五年	五八五〇、〇〇〇	計金額	一三八、五一六
▽	麥	四年	二八〇三、〇〇〇	五年	五六〇六、〇〇〇	計金額	一六三、三〇六

▽	各種農産物	年次	作付反別	收穫高	反當收穫	一石当單價	計金額
〃	〃	昭和十四年	一〇二二反	一三五五石	一石三六〇	一八四六〇	二八千二三〇円
〃	〃	昭和元年	一一四一、〇〇〇	一一五二、〇〇〇	一、一四〇	一四、八〇〇	一六、五三三
〃	〃	二年	一一九一、〇〇〇	一六六四、〇〇〇	一、四〇〇	二一、〇〇〇	二二、〇四六
〃	〃	三年	一一九一、〇〇〇	一四〇九、〇〇〇	一、四四〇	二一、五〇〇	一九、四四八
〃	〃	四年	一一九一、〇〇〇	一三七三、〇〇〇	一、二四〇	二一、三〇〇	一九、三四二

種別	作付反別	産額	價格	種別	作付反別	産額	價格
大豆	一三〇反	一三〇石	一、九五〇円	筍	五三反	一〇、〇〇〇	三、〇〇〇円
小豆	一〇五反	四八石	一、一二〇	除虫菊	一二反	一、五九〇	五、〇八八
蕎麦	一〇〇	八〇	一、四〇〇	阿片	二一	八九、五八〇	一八、一一二
甘藷	六〇	一八、〇〇〇	一、四四〇	柑橘類	七一	一二、七四五	三一、八六二
馬鈴薯	三〇	六〇〇〇	一、九〇〇	柿	一五	三〇石	一、八七五
大根	八五	一〇二、〇〇〇	五、一〇〇	梅	二五	一八〇	一、五〇〇
里芋	三六	六、五〇〇	一、三〇〇	梨	二	一八〇	一、五〇〇
西瓜	三五	二八、〇〇〇	一、三〇〇	エンドウ	五	二七石	二、二七〇
茄子	一三	三、二五〇	四二二	ソラマメ	三二〇	二、五六〇	二、五七〇
其他雜産物			一五、三〇〇				

一、家畜及養鶏

家畜ノ主ナルモノハ牛馬ニシテ、概ネ耕作用トシテ飼育ス。其頭數ハ牛三百十四頭馬八十二頭ニシテ平均牛ハ一ヶ年内ニ於ケル生産ハ牡五頭牝五頭ナリ。養鶏ハ卵肉ヲ自家使用ノ目的ニ飼育スルノミナリ

## 一、林野産物

林産物ノ主ナルモノハ木炭ニシテ、其ノ最近一ヶ年ノ産額一万九千八百六十円ナリ。之ニ次グハ松茸ナリ。全村至ルトコロ松林多ク初冬ノ俟此ノ松林ヨリ産スル松茸夥シク年産額約三万斤アリ

## 第十七 土 木

本村ノ土木事務ハ主トシテ道路ノ改修ナリ。明治四十二年印南切目川線ノ改修ニ初マリ十有九年ノ久シキ昭和二年度ニ於テ漸ク主要幹線及其他支線ノ全部ノ改修ヲ完了シ得タリ。其ノ間事業上ノ経費ハ縣及其他ノ補助金ヲ除ク外其全部ハ村民ノ負擔ニシテ尚之ニ要スル敷地ハ所属部落ノ寄附ニヨリテ行ヒタリ。経費ノ徴集ニ當リテハ永年コノ多額負擔ナリシニ拘ラズ少シノ滞納者ヲ見ズ、就中大字印南原ノ如キ所要敷地ノ買収ニ當リ改修ノ當初ヨリ地價五倍ノ價ヲ以テ終始提供シ極メテ順調ニ遂行シ得タリ。

今左ニ永年改修セル道路ノ創始以来ノ狀況ヲ摘録シテ創始當時ノ苦心ヲ表セシトスルモノナリ。

左記ハ印南切目川線ノ改修ニ係ルモノニシテ交通聯絡上附近町村ト共同出願セルモノナリ。

▽改修道路最初ノ狀況

### 計画證明書

印南往來ハ過年来所々改修又ハ切開ヲ施サレ漸ク利便ヲ得ルニ随ヒ年々交通ノ度ヲ加フルノ傾向ナ

リシニ前年大阪商船會社ノ印南港ヲ定期港トナセシ以來本線沿道ノ交通著シク繁劇ノ為メ今ヤ進テ海陸聯絡ノ完成ヲ急トスルノ時運ニ達セリ。然ルニ本線路中ノ主要地区タル印南ヨリ切目川村大字古井ニ至ル間ハ道路尚ホ高低ノ甚シキアリテ其ノ不便實ニ全線路ニ波及スルヲ確認ス。茲ニ於テ別紙設計書類ニ基キ之ガ改修ヲ施シ以テ民業ノ發達ニ資セントスルモノナリ。

然ルニ此年公私多費ノ折柄町村費ハ先以テ有志ノ寄付ヲ俟タザルヲ得ザルノ究境ニアルニ抱ラズ前項ノ計画ヲ遂ゲントスルモノ又實イ時勢ノ然ラシムル處ニシテ是即チ本願提出スルノ止ムヲ得ザル理由ナリ

#### 工費補助願

實業ノ發達ヲ企画シ公衆ノ福利増進ヲ期スルニ交通上ノ便否ノ関スル處頗大ナリ。印南町大字印南ヨリ稻原村大字山口並ニ印南原ノ内奈良井及切目川村大字古井ヲ經テ龍神村ニ達スル線路ヲ從來印南往來ト稱シ年ヲ逐ウテ交通頻繁ナルニ道路不足ノ個所多ク一般ニ不便利ヲ認ムルコト既ニ年アリ今ヤ海陸交通ノ聯絡必要ニ迫リ在來ノ姿ニテハ愈々便利ヲ加フル而已ナラズ自ラ民業ノ進歩ヲ阻碍スルノ慮モ有之依之今次當町村會ニ於テ右印南古井間道路ヲ改修スベキコトハ決定相成候處工業多額ニシテ當町村費ノミニテハ到底目的ヲ達スル能ハズ候ニ付何卒御詮議ノ上補助被下度別紙決議書謄本其他關係書類相添へ連署ヲ以此段奉願候也

明治三十九年五月廿八日

日高郡印南町長

森

徳太郎

〃

稻原村長

夏見

康太郎

宛名ヲ失スル? (芝口)

當時ノ村會議員ハ

津井田	長助	山岡	傳次郎	三木	楠松	橋詰	龜吉	高野	恆太郎
中村	吉松	大谷	宗助	依岡	傳七	山西	伴助	夏見	直楠
楠木	久兵衛	弓倉	房楠ナリ						

(本?)

// 切目川村長 中本 康 英

其ノ後更ニ明治四十年五月二十三日前年ノ補助申請其ノ希望ヲ達セザルノ故ヲ以テ更ニ村會ヲ開催シ今月二十四日左ノ書類ヲ提出シタリ

工費補助願

昨年五月廿八日附ヲ以印南町及切目川ト共ニ連署ノ上願ニ及候印南往来ノ改修八年ヲ逐フテ愈々其必要ヲ感ジ来リ候ニ付昨年度既ニ提出致置候關係書類ニ依リ何卒御詮議ノ上工費ノ補助被下度此段奉願候也

明治四十五年五月廿四日 日高郡稻原村長 山西 藤七

和歌山縣知事殿

(明治四十年ノ誤リナラン)

同年五月三十一日附明治四十年度ニ於テ補助ナキコトヲ通知アリ。尔来關係官廳トノ照覆スルコト幾回遂ニ明治四十一年四月十日附左ノ指令アリタリ

和歌山縣指令丙二第二二五四号

日高郡 稻原村

明治四十年五月二十四日付申請印南往来改修工事補助ノ件左記ノ條件ニ依リ査定設定額金二千二百四十五円四十一錢ニ對シ八百九十八円明治四十一年度縣費ヨリ補助ス



# 改修道路線延長表

路線名	起點	終點	重なる地	延長	長橋	長梁	延長	幅員備考
縣道寒川印南線 ノ内稻原分	大字山口字大畑ケ	大字印南原字藤敷	自大字山口字大畑ケ大字印南原瀧ノ口四、三四一間	三、四一	三	八	間九	
縣道稻原北塩屋線 ノ内稻原分	大字印南原字落合	大字印南原字落合	自大字印南原字落合大字印南原字落合大字明神川蕨野	二、二七二	二	三	九	
西山口線	自大畑ケ	自中洲	西山口	五四〇	四	四	六	
印南切目川線	自瀧ノ口	自古井口	奈良井谷字奈良垣内ヨリ北塩屋 高城線重用	六〇〇	四	四	九	
北塩屋高城線	自古井口	自古井口	猿橋、大峠、奈良垣内、 楠根中ノ谷、向イ垣内、 津井谷、東谷、出口	一、五六〇	八	八	九	
切目川鐘巻線	自字白川碓	自字白川碓	津井谷、東谷、出口	五五八	三	三	九	
柳畑白川線	自前ノ道	自前ノ道	南畑	五二七	〇	〇	九	
印南川中線	自糸巻	自糸巻	山谷、人谷、樫平、神田、楠平	一、〇五〇	七	七	九	
瀧法寺線	自瀧ノ口五二五	自瀧ノ口五二五	印南、切目川線瀧ノ口ニテ	四〇	四	四	九	
南畑線	自字外内	自字外内	分岐瀧法寺道 南畑	八四〇	六	六	六	
稻原鐘巻線	自印南原前ノ道	自印南原前ノ道	柳畑、立石	一、九七〇	八	八	九	
塩屋川中線	自立石王子谷	自立石王子谷	明神川、北浦	八七九	六	六	九	
明神川線	自西ノ前	自西ノ前	大田、坂東	四八〇	〇	〇	六	
南谷線	自南谷忠六峠	自南谷忠六峠	南谷、吝字	一、〇八〇	八	八	六	
切山線	自字四反田ノノ	自字四反田ノノ	畔田、切山谷、切山	六八〇	四	四	九	

印南原中越ヨリ切目川古井ニ  
通アル大峠隧道ハ昭和二十二年  
十一月着工約二年九月ヲ要シテ  
完成昭和二十五年八月廿日完成  
式ヲ挙グ 延長七〇米幅員  
四、五米

# 第十八 兵 事

## 受驗壯丁体格等位

年次	受檢總數	甲種	第一乙種	第二乙種	丙種	丁種	備考
大正十四年	三〇〇	一五	五	六	二		
昭和元年	三〇〇	一八	六	七	八		
" 二年	三九〇	一四	五	三	七		
" 三年	三三一	一七	五	六	八		
" 四年	三二二	一四	五	三	七		

## 徵兵檢査成績調

年次	現役	海軍志願	六週間現役	一年志願	補充兵	兵役免除	兵役猶豫
大正十四年	九	〇	〇	〇	二	〇	一五
昭和元年	七	〇	一	〇	六	〇	一六
" 二年	九	一	一	〇	七	〇	一六
" 三年	六	一	二	〇	一	〇	一六
" 四年	一七	二	〇	〇	一	三	四一

## 在榮艦軍人數

昭和四年十二月末現在

步兵	七
騎兵	三
砲兵	三
輜重兵	一
水兵	五
機關兵	一
主計兵	一
計	二〇

## 在郷軍人數

全 上

陸軍分區	〇〇〇
上長官	〇
士官	一〇一
准士官	一〇一
下士	四一三
兵卒	八一七
補充兵	九四〇
計	一七三二

年金恩給扶助料調

昭和四年十二月末日現在

恩給年額	同上人員	勲章年金	同上人員	遺族扶助料	全上人員
二、一三五	一四	六〇〇	五	七〇二	六

第十九 各種團體

一、帝國在郷軍人會稻原分會

明治三十三年八月平野光藏中村吉五郎兩氏ノ發起ニヨリテ稻原村在郷軍人忠誠義會ヲ組織ス。當時ハ會長平野光藏副會長中村吉五郎理事谷安松、西坪安太郎、中家善四郎書記團東信亮、佐藤又次郎ノ諸氏ナリ。明治四十三年八月帝國在郷軍人會ノ組織セラル、ニ當リ帝國在郷軍人會稻原村分會ト改稱シタリ。

今創立以來ノ分會長ヲ列記スレバ左ノ如シ

分會長氏名	就任年月日	退職年月日	備考
平野光藏	明治三十三年八月三日	明治四十三年十二月	忠誠義會當時 以下在郷軍人会
平野貢	〃 四十三年十二月	大正三年七月十一日	
小西保兵衛	大正五年二月十六日	〃 六年九月	
岡本三代一	〃 六年九月十六日	〃 十三年七月廿四日	
石野久藏	〃 十二年九月廿一日	〃 十四年八月廿九日	
山本新太郎	〃 十四年八月廿九日	昭和二年二月	
平野幸男	昭和二年二月二十七日	現任 中	

本会ハ兵役ニ關係アル者ヲ以テ組織ス 現在會員 百七十五名

其經營ハ會員ヨリ會費ノ徵集及村費ノ補助ヲ以テス

一、稻原村青年團

本村青年會ハ以前各部落ニ設置セラレ、大字印南原ハ稻原小学校ヲ以テ会場トシ山口、明神川、字稻原ハ會場ヲ建設シ何レモ其ノ經營ヲ異ニシタリ。今創設當時ノ狀況ハ左ノ如シ。

名称	所在	創設年月日	團員數	團員ノ 年齡範圍	事業ノ大要	團體維持ノ方法	備考
山口青年會	大字山口	明治四十一年四月	三五	十五才以上	夜学、試作、植林	會員ノ會費	
稻原青年會	〃印南原	〃四十二年四月	八六	三十才以下	消防	賛助員ノ寄付	
西部青年會	〃明神川	〃四十三年八月	五七	〃	夜学、消防	會員ノ會費	

▽現在ノ青年會ノ活動狀況

村長ヲ會長トシ助役ヲ副會長トシ山口、印南原、西部ノ三支部ヲ設置シ各小學校長ヲ幹事トシ村在郷軍人分會長及ビ處女會婦人會ト聯絡シ毎年二月八月ノ二回ニ通常總會ヲ開催スル外必要ニ應ジ臨時總會ヲ開催シ本會トシテノ活動方法及會員ノ修養ニ関スル協議打合ヲナシ之ガ決議ニ基キテ概ネ左ノ事項ヲ行ヒツヽアリ。尚各支部ニ於テ毎月一回例會ヲ開キテ本會ニ於テ決議セル事項ノ實施其他ノ他ノ協議ヲナシ且ツ又支部トシテノ意見ヲ本會ニ開陳スルコトヽセリ。且ツ左ノ事業ヲナス

一、雜誌瑞穂ノ發行 昭和二年ヨリ隔月一回會員ヨリ原稿ヲ提出セシム 本誌ハ村内會員及有志並ニ他出中ノ會員ニ配布ス

一、稻原青年文庫ヲ設置シ年々村費ヲ以テ書籍ヲ購入シ各會員ニ廻覽セシムルノ外新聞雜誌ヲ購讀シ會員ノ修養素質ノ向上ニ努ムルト共ニ總會等ノ場合ニハ名士ヲ招キ講演ヲナス

一、農業上ノ知識向上ヲ圖ル為メ村農會技術員又ハ斯業ノ造詣深キ名士ヲ聘シテ講演、講習會ヲ開催シ斯業ノ改

良増殖等ノ調査研究ヲナシ且其ノ意見ノ発表ヲナス

一、毎年一回辯論會ヲ開催シ會員相互ノ意見ヲ発表ス

一、毎年一回村内小学校聯合運動會ノ当日運動會ヲ開催ス

一、郡青年會競技大會出場選手ノ練習

一、入營退營兵ノ送迎茶話會ノ開催

一、入營團兵其ノ他ノ家庭ニ於テ病氣事故ノタメ農繁期家業ニ支障ヲ生ズルモノアル時ハ會員協力出動シ手傳ヲナス。

一、年末其ノ他變アル場合又ハ社会秩序維持上不安ノ慮アル場合ハ在郷軍人會ト協力シ夜警ヲナシ之ガ未然ニ防衛ヲナス。

一、村有林植林地ノ下刈又ハ道路ノ修繕等ノ請負ヲナシ之ヨリ得タル一部ヲ以テ會ノ基金トシテ蓄積ス 以上  
義勇警察團

本團ハ稻原村在郷軍人會ト村青年團員トニヨリ組織シ、警察当局ト協力シテ變アル際ニ備ヘツ  
トアリ。

一、稻原村婦人會

大正八年九月五日創立稻原小学校内ニ事務所ヲ置キ便宜上印南原、山口、南谷ニ支會ヲ設置ス  
會員ハ本村内ニ居住スル滿十二歳以上滿四十歳以下ノ婦人ヲ以テ組織ス。村長ヲ以テ會長トシ助  
役ヲ副會長トシ幹事六名ヲ置キ各支會ニ支會長ヲ置ク。各支會ニ於テ毎月一回支會總會ヲ催シ而  
シテ毎年一回通常總會ヲ開催ス。本會ハ本費ノ補助ヲ以テ經營ヲナシ會員各自ノ自覚ヲ促シ婦徳  
ノ修養ト品性ノ向上ヲ圖リ生活ニ必要ナル智能ヲ研キ良妻賢母タルノ實ヲ擧グルニ努メツトアリ。

一、産業組合

村内ニ庶民金融機関トシテ左ノ四組合アリ経営其ノ當ヲ得テ何レモ好成績ヲ舉ゲツゝアリ。今其ノ事業狀況ヲ列記スレバ左ノ如シ

▽山口信用組合

組合設立年月日 明治四十二年四月二十日  
 出資口数 一四一  
 組合員数 九二  
 組合長氏名 平田 徳之助

理事 平田 徳之助  
 監事 津村 政吉  
 林 楠右衛門 岡本 三夫  
 岡本 文七 依岡 為吉  
 関 萬太郎 裏岡 登

○貸借対照表

昭和四年十二月末日現在

貸		借	
種目	金額	種目	金額
拂込未済出資金	五〇〇、〇〇〇	出資	一、四一〇、〇〇〇
産業組合中央金庫出資金	六〇〇、〇〇〇	拂込未済中央金庫出資金	一四一、七〇〇
縣聯合会出資金	二〇、〇〇〇	縣聯合会出資金	二六九、七〇〇
預入金	二〇、〇〇〇	組合員貯金	三八、六〇六、七六〇
貸付金	三七、六六〇、一六〇	家族及團體貯金	九、一三六、四七〇
購買品残高	〇	豫約者ノ貯金	〇
未収入却品代	〇	借入金	〇
未収入利息	〇	未拂拂利賣代	〇
有価証券	一、二七六、〇〇〇	未拂拂利賣代	〇
土地	〇	給付利補借金	二、〇〇八、二九〇
建物	〇	準備金	三、一〇〇、二二八
什器	一、六九二、〇〇〇	特別積立金	六、三五八、二五三
現金	六二、〇四七、四五〇	本年度剩餘金	六二、〇四七、四五〇
合計	六二、〇四七、四五〇	合計	六二、〇四七、四五〇

▽南畑信用購賣組合

組合設立年月日  
明治四十四年八月廿五日

出資口数  
一九六

組合員数  
七一

組合長氏名  
平野 光蔵

理事氏名  
平野 光蔵  
平野 營輝  
三木 任楠  
新井 由兵衛

監事氏名  
原 元七  
三木 源楠  
平野 平次郎

○貸借対照表

昭和四年十二月末日現在

貸		借	
種目	金額	種目	金額
拂込未済出資金	三〇〇〇〇	拂込未済中央金庫出資金	一、九六〇〇〇
産業組合中央金庫出資金	三〇〇〇〇	縣聯合会出資金	八五、二〇〇
縣聯合会出資金	三〇〇〇〇	組合員貯金	四、二四〇、一一〇
預入金	三、三三三、二四〇	家族及團体貯金	一、二五八、一五〇
貸付金	四、三二九、〇〇〇	豫約者ノ貯金	〇
購買品残高	二六八、〇七〇	借入金	〇
未収入却代利息	九、九〇〇	未済購買代	五、四〇〇
有價証券	八〇〇、〇〇〇	未拂利息	〇
土地建物	八五、〇〇〇	給付利息補金	〇
什器	〇	準備金	一、四〇三、四一一
假渡金	四八、〇〇〇	特別積立金	三三五、〇〇六
現金	六八六、一〇〇	本年度剩餘金	二四三、六四五
<b>合計</b>	<b>九、五三〇、七四二</b>	<b>合計</b>	<b>九、五三〇、七四二</b>

▽明神川信用購買組合

昭和四年十二月末日現在

組合設立年月日  
大正 二年九月廿四日

出資口数  
五一〇

組合員数  
一一六

組合長氏名  
石野 久蔵

理事氏名  
石野 久蔵  
中村 徳市  
東 萬太郎

監事氏名  
坂上 佐太郎  
花光 徳次郎  
佐藤 又助

東 萬太郎

佐藤 又助

○貸借對照表

昭和四年十二月末現在

楠本 儀平 蕨野 平次郎

種 目		金 方	種 目	金 方
拂込未済出資金	五〇〇、〇〇〇	出資	五、一〇〇、〇〇〇	
産業組合中央金庫出資金	六〇〇、〇〇〇	縣聯合會出資金	一四一、七〇〇	
縣聯合會出資金	二、二七二、七九〇	組合員貯金	二七〇、〇〇〇	
預入金	三八、八五五、二七〇	家族及團體貯金	一四、四四八、五四六	
貸付金	一、四七五、八〇〇	豫約者ノ貯金	〇	
購買品残高	三、〇八〇、〇五〇	借入金	〇	
未収入利息	〇	未拂購賣代	〇	
有價証券	〇	未拂利息	〇	
土地	〇	給付填補備金	〇	
建物	一、二三八、七二〇	準備積立金	二、九三三、二九二	
什器	三三〇、〇〇〇	特別積立金	八五〇、〇〇〇	
備品	二二〇、〇〇〇	本年度剩餘金	四七八、二七〇	
假渡金	二二〇、〇〇〇	合 計	四九、二七九、三〇八	
現金	四五九、八二八			
合 計	四九、二七九、三〇八			

▽南谷信用購買利用組合

組合設立年月日 明治四十五年四月廿二日  
 出資口数 四八四  
 組合員数 六五  
 組合長氏名 弓倉 周太郎  
 理事氏名 弓倉 周太郎  
 監事氏名 弓倉 三郎  
 弓倉 兼助  
 花谷 清太郎

○貸借對照表

昭和四年十二月末日現在

貸		借	
種目	金額	種目	金額
拂込未済出資金	一、四〇四、〇〇〇	出資金	四、六八〇、〇〇〇
産業組合中央金庫出資金	四〇〇、〇〇〇	拂込未済中央金庫出資金	一、一三三、三六〇
縣聯合會出資金	三〇〇、〇〇〇	全縣聯合會出資金	〇
預金	五、〇〇〇、〇〇〇	組合員貯金	一、〇〇〇、〇〇〇
貸付金	三一、五二三、三三〇	家族及團體貯金	一、〇〇〇、〇〇〇
利用品殘高	一、三三一、五〇〇	借入金	六、四〇〇、〇〇〇
未収入却品代	七、七六、七六〇	未拂購買代	〇
未收利息	二、七五、〇〇〇	未拂利息	四〇〇、一五〇
有價証券	〇	給付填補備金	〇
土地	〇	準備積立金	三、九六三、五四〇
建築物	五、二八〇、〇〇〇	特別積立金	一、二四、六一五
什器備	八、二四、二三五	本年度剩餘金	四三、一〇一、四三五
利用設備	一、一五〇、〇〇〇		
現金	七、八七、五六〇		
合計	四三、一〇一、四三五		

## 第二十 雜 表

### ▽議員選舉有權者數

衆議院議員選舉有權者數

六五五

縣會議員選舉有權者數

六五五

村會議員選舉有權者數

六四一

備考

### ▽縣稅營業稅ヲ納ムルモノ

昭和五年四月一日現在

物品販賣業 製造業 周旋業 理髮業  
三五 二二 六 一

### ▽商工業戸數

全 上



昭和三年 二八六 五一 二二七 一一 六 三〇 二六 一六 二 四一 四 六 〇 二二 〇〇 〇〇 〇〇  
 四年 二二二 七三 一九〇 一〇 一二 一七 四 四 三 四一 六 一 二〇 〇〇 〇〇 〇〇

## 第二十一社寺宗教

### 社寺一覽(神社)

神社名	社格	所在地	祭神	社殿	境内坪数	氏子数	例祭日	社掌氏名
大歳神社	村社	大字印南原字東谷	大歳神社外五柱		八三五坪	二五五	十月十七日	平野 光蔵
八幡神社	〃	大字山口字宮ノ前	譽田別命ノ外二柱	一、一五六	〃	五〇〇	十月二日	岡田 左内

### 同上(寺院)

宗派	寺名	山号院号	所在地	本堂	本尊	境内坪数	檀家数	信徒数	住職氏名
浄土宗鎮西派	最勝寺	福德山	大字山口字西山口	三間半四面	阿弥陀仏	二六六	二六	一二	垣 秀雄
〃 西山派	仙光寺	遍照山	〃 字東山口	四間二五間	〃	二〇三	五〇	二〇〇	(兼) 生賀義度
真言宗山階派	灌法寺	南陽山南龍院	大字印南原字瀧ノ口	四間四面	虚空蔵	〇	〇	一、三三〇	(兼) 長岡律圓
浄土宗西山光明寺派	西岸寺	南涼山	〃 字奈良井	五間四面	阿弥陀仏	一四二	六二	三一五	生賀 義慶
浄土宗鎮西派	正覚寺	溪林山皆成院	〃 字中越	〃	〃	三四一	一五六	八五	塩路 貫全
真宗本派	専福寺	〇	〃 字柳畑	四間二五間	〃	三六〇	六四	〃	清水 重雄
浄土宗鎮西派	専光寺	蓮花三昧院	大字明神川	四間二五間	〃	一〇七	四〇	一〇〇	東 秀戒
真宗本派	明應寺	樹林山	大字南谷字南岡	四間二五間	〃	一六八	四二	三〇五	榎 正因
浄土宗鎮西派	善忠寺	〃	〃	〃	〃	六八	一六	二一五	(兼) 宮本 信鏡

### 同上(教會)

名	称	所在地	教徒数	信徒数	會主
天理教敷島大教会紀陽分教会南陽支教会南盛宣教所		大字印南原字瀧ノ口	一二	一一〇	丸木 熊次郎

### 紀伊續風土記二記載セル神祠佛堂(前表以外ノモノ)

在地位	名称	神祠佛堂別神佛	旧境	内現境内	現存ノ有無	備考
大字山口	牛頭天王社	神	社地周	三十四間	無	明治四十一年村社八幡神社へ合祀ス

所在地	名称	神祠佛堂別神佛	旧境	内境	現境内	現存ノ有無	備考
大字印南原	大歳明神社	神	境內周	四十二間	現境内	有	全 年 印南町宇杉八幡神社ニ合祀ス
大字印南原	辨財天社	佛	境內周	二十八間	現境内	有	右 同
大字立石	法泉寺	佛	境內周	五十四間	現境内	有	本堂ヲ公會堂ニ改築ス
大字立石	武塔天神	佛	境內周	三十七間	現境内	有	庫裡ノミ存シ今公會堂トセリ
大字明神川春日社	觀音寺	神	境內周	八間	現境内	有	明治四十一年塩屋村須佐神社ヘ合祀ス
大字明神川春日社	住吉社	神	社地周	四十六間	現境内	有	明治四十一年塩屋村須佐神社ニ合祀ス
大字南谷	氏神社	神	社地周	三十六間	現境内	有	明治四十一年塩屋須佐神社ニ合祀ス
大字南谷	龍王社	神	社地周	四十六間	現境内	有	明治四十一年塩屋須佐神社ニ合祀ス
大字印南原	字瀧之口(ひじ松)	庚申堂	佛	祭神又ハ佛像	境内坪数	官有地民有地別	備考
全大字	字柳畑(但字芝)	子安地蔵	佛	青面金剛童子	三坪		
同大字	字柳畑	庚申堂	佛	地蔵菩薩	二		
同大字	字南畑(字堂ノ原)	觀音堂*	佛	青面金剛童子	五		
同大字	字全(字坊ヶ平)	庚申堂	佛	十一面觀音外三尊	九	官	金及山福寿庵ト号ス
同大字	白川(字津井田)	觀音堂	佛	十一面觀音	一		
同大字	字全(字同)	氏神社	神	氏 神	一〇		
同大字	字中越(字鳥巢)	藥師堂	佛	藥師如来	五		
大字立石	觀音堂	稻荷神社	神	金山彦命	三		
大字立石	觀音堂	觀音堂	佛	保 食	三		
大字明神川	蕨野	庚申堂	佛	青面金剛童子其他	五		

大字印南原中庄助氏傍ニアリ境内ニ藤ノ大樹アリテ  
高二十尺ノ木ニヨチ上レリ

所	在	地	名	稱	神祠佛堂ノ別神佛	祭神又ハ佛像	境内坪数	官有地民有地別	備	考
同大字蕨野			白蛇社 <sup>?</sup>	神	?		五			境内樹木多クシテ幽邃ナリ

▽村社 大歳神社

本社大字印南原字東谷ニ鎮座リマス村社ナリ。紀伊讀風土記ニ記セル旧神境ハ周八十四間。現在土地台帳面総坪数ハ五百八十七坪コノ実測面積八百三十五坪ニシテ氏子ハ二百五十五戸ナリ。本殿ハ桁行一間九分梁行一間七分三厘ニシテ御祭神ハ大歳大神、御歳神、大市姫命、伊邪那岐命、伊邪那美命、素盞鳴命ノ六柱ノ神ヲ齋キ祀レリ。境内ニ末社五社アリ。若宮八幡神社奥津神社金比羅神社蔵王神社楠木神社(合祀)稻荷神社アリ。社殿ハ本殿拜殿、社務所長床及鳥居ニ基アリ。由緒及勸請ノ年月ヲ詳カニセズ信濃国那津見ガ原ヨリ勸請スト言ヒ傳フ。人皇第七十二代白川(河)天皇熊野行幸ノ砌印南川ノ上流ニ大歳神ノ鎮座リマス由ヲ聞召サレ畏クモ勅使御差遣アラセ給ヒシ由言ヒ傳フ。今本社ノ鎮座リマス地ヲ白川ト称ス是レ其ノ故ナランカ。往古ヨリ大歳神トシテ毎年祈年祭ヲ行ヒ来レリ。元禄頃ハ有田郡津木村及西牟婁郡田辺地方ヨリ參拜スルヲ例トシ、秋祭ニハ八束穂ヲ脊負ヒ来リテ献納セリト傳フ。昔時ハ氏子数ヶ町村ニ互リシモ祭礼ノ際ノ争ヒ等ニヨリ各々社ヲ建テ分離シタリ。元山口村ニアリシ太歳神社ノ如キ其ノ著キモノナリ。(山口ノ太歳神社ハ明治四十一年印南町宇杉八幡神社ニ合祀シタリ)

社殿ハ永禄六年本殿ヲ造営セシガ天正十二年一月社地ノ背後ナル猪内川村山林ノ火災ニ類焼シ時ノ神主ガ幸ヒ御神靈ヲ奉ジテ避難スルヲ得テ同十四年假殿ヲ営ムル後寛永十四年天保二年嘉永

四年慶応三年等ノ御屋根替ヲ経テ明治十九年本殿ヲ改築ス現在ノ本殿ハ即チ是ナリ。明治六年四月村社ニ列シ同四十一年大字印南原ノ無格社ヲ合祀シタリ同四十二年十二月神饌幣帛料ノ供進指定ヲ受ク大正十年四月氏子及氏子出身者ノ寄附ニヨリ玉垣其他神域ノ整備ヲナシタリ。

### 太歳官由記

由緒記ナラン原本ニモ由記ト書セリ(芝)

一、南紀日高郡印南原之邑太歳官之因由往昔信濃國那津身の原より中若太夫奉臨幸し古白河と名付て為御息休 奉員幸居之因を以て今古白河と其地を名付たり 次に追て白河と廣まり其の河瀬の下を河口其名改り従夫水の流るし筋を以て邑となれり。なつみが原より南に御氣臨の邑なるによつて印南原と名付けたり

(某踏輪?)

天正十三年の兵乱に神社佛閣焼失の乱世なれば當社太歳宮も隣村に猪内川村□□□焼失(亡)致せし砌巻き物寶物等焼亡或は紛失せり 御本地御鏡守り出し奉り其節焼敷(敬)之■(印)には赤銅の手柏子三からすぐ(ゴ)一振り今有り其他靈寶は焼失たれ(左通?)

左 十一面觀世音菩薩

本社 太歳大明神 御本地薬師如來

右 大日如來 なり

東に若宮八幡 扁つ津い殿

末社 五社 西の御前 楠木殿

藏王權現 之は中氏境内有り

御正体哥曰

増須鏡雲井合天御覽世波千代仁耶千代仁於重子重子津(ますかゞみ雲井あはせて御覽せば千代に八千代に重かさねつ)

次末社之哥曰

千刃耶振神乃志記地仁松植天世於納留事曾嬉幾（千早ぶる神の敷地に松植て世しを治むる事ぞうれしき）

又哥仁

神風耶我加三毒於吹拂宇殘留心耶高天成利危利（神風や我が三毒を吹拂ふ残る心や高たか天なりけり（芝））

藏王現權現哥曰

千葉耶經天津兒屋根乃神代與利本結初メ奈須我忘礼曾（千早ぶる天津兒屋根の神代より本結ひそめなし忘れそ）

当邑開地乃屋敷 七屋敷

内手拍子屋敷三地

讀ついで田屋敷  
鍛か冶じ屋敷  
成なりぶち屋敷

右者卷物焼亡依有乃略記如斯

慶安五年初秋

南紀日高郡山田莊印南原邑

中氏某 若太夫

明治四十一年當社へ合祀セル氏子ノ無格社ハ左ノ通り

一、井奈瀧社 大字印南原字瀧之口に鎮座セル無格社

祭神ハ伊邪那岐命、伊邪那美命、今本殿ニ合祀セリ

一、八坂神社 同大字字東谷ニセル無格社

祭神ハ素盞鳴命 今本殿ニ合祀セリ

一、若宮八幡神社同大字字鳥巢ニ鎮座セル無格社

祭神ハ誉田別命、今本社ノ東ニ鎮座ス

一、秋葉神社 同大字字清水平ニ鎮座セル無格社

祭神ハ火ひ口くち（結・續）神、今本社ノ東奥津神社ニ合祀セリ

一、地主神社 同大字字氏神ニ鎮座セル無格社

祭神ハ不詳 今本社ノ東若宮八幡神社ニ合祀セリ

一、金比羅神社 同大字字橋免鎮座ノ同社 字坂井谷鎮座ノ同社 字東谷鎮座ノ同社

字深野鎮座ノ同社ノ四社ヲ合セテ今本社ノ東ニ祀レリ

一、稻荷神社 同大字字赤坂ニ鎮座ノ無格社

祭神ハ保食大神 今本社ノ西ニ祀レリ

### 當社の宝物十二点アリ今其ノ内ノ棟札ニ

一、正徳五末年二月ノ寄進札（奉納棟札宮田一ヶ所此里人願主小川才兵衛肝煎安太夫同断伴七神主友内角平、表記之田地米四斗庄屋煎寄進）トアリ

一、寛保元酉六月吉日奉納棟札林山一ヶ所長河原谷願主傳太夫友内若太夫庄屋小川市三郎肝煎徳兵衛重郎衛社人塩路源之亟 山中株太兵衛 鍛冶屋株善右衛門 太鼓鳴淵株長四郎

一、銅吊燈籠一對 正徳二年正月廿日印南原平野理左衛門奉納及南畑講中 講主平野理左衛門ヨリ奉納ス

一、同上 一對 宝暦七年五月印南原村川口組若中 小川庄八 川口清蔵奉納

### 今當社歴代神職ノ判明セルモノヲ列記スレバ左ノ如シ

中若太夫……………平野数馬（永禄天正ノ頃）……………塩路源藏（寛永頃）……………平野理兵衛（慶安頃）……………平野理左衛門

（元・禄頃）……………友内角平（正徳頃）……………新地掃部（天文頃）……………友内若太夫（寛保頃）……………平野儀兵衛（天明四年就

職）……………塩路平兵衛（文化八年就職）……………塩路善助（文政三年就職）……………森田多計留（嘉永元年就職）……………中縫之助

（慶應二年就職）……………平野理太夫（明治十一年就職）……………宮本官治（明治十八年兼就職）……………平野千代松（明治二十年就職）

……………平野光蔵（明治廿九年就職）……………岡田左喜代（明治三十年兼就職）……………平野 貢（明治三十二年改名）……………平野光

蔵（現在社掌平野光蔵氏ハ先祖数代当社ニ奉仕セリ） 正徳寄進神燈籠ニ平野理左エ門ノ名見ユ（芝）

當社ハ切目川鐘卷往來線ニ接近シ土地幽邃ニシテ其境内ニ松ノ老樹アリ樹齡凡六百年高サ五十餘尺廻リ

十一尺五寸アリ

丹生村和佐ニ當田山ト云フ山アリ 當田半之助ニ關係アルカ（芝）後章名所旧蹟ノ項印南原城趾ノ條ニ富田丑之助ノ名見ユ富田、或ハ當田ノ誤リカ其項参照セラルベシ

▽村社 八幡神社

本村大字山口字宮ノ前ニ鎮座ス。紀伊名所圖会ニ云フ（正八幡宮印南ヨリ東ニ入ルコト十五町西山口ニアリ山口・中村・津井・楠井・上野・野島ノ産土神ナリ）旧神境周四町五十八間現在ノ境内地坪數千百五十六坪アリ現在ノ氏子七百九十六戸社殿ハ本殿神與舎長床アリ。本殿ハ桁行二間五尺、梁行一間三尺三扉ニシテ祭神ハ譽田別命、天照皇大神、春日大神ノ三柱ヲ齋キ祀ル。

末社四社 稻荷神社 猿田彦神社 天宇須女命 住吉神社アリ 勸請年月ヲ詳カニセス。本殿ハ慶長十一年及元禄元年神殿再建又宝曆五年十一月檜皮屋根葺替願主撰津東成郡四天王寺司宮藤原朝臣家次旧好所縁故寄附トアリ

印南森氏ニ傳フル當社ニ関スル旧記ニ曰ク

一、先年イツノ項ヲ知ラズ、 ナダ目ノ内野島ハライ井戸ト申所へ海上ヨリ御上リ被遊候由ニテ、少之内右ハライ井戸御鎮座被遊今ニ井戸アリ。其後印南上ケ御神子越休山ニ御鎮座被遊候得共波ノ音イカゞト被御候付今ノ西山口ノ御山へ勤請申由聞傳也。其節ハヨウガイノ城主湯川右衛門太夫殿知行所ニテ印南・中村・古井・榎川村、領地被成千石計領地被成候。依之湯川右衛門太夫殿氏神ニ付祭礼ヲ御初メ四年三度ヅ、御塩出被成神歌モ其節作り夫故笠フク今ニ一番ニ出シ申候

一、中村地方サイカ踊ノ儀萬治年中福富市兵衛様ト申ス郡奉行日高郡御支配ノ時御願申上候處和歌山へ願之趣御達被下其後相濟ヲドリ初メ今ニ七ヶ村一番ニヲドリ来申候。其節ハ外村ニ踊

無御座候。神歌ハ浦方又衛先祖ヨリ出シ初メ茶ベン田ヨリ御逸初リ申シ候

一、神歌二曰

男山栄える御代は久方の月は雲らじ秋は最中なるらん

明治四十一年氏下各町村ノ無格社ヲ本社ニ合祀セリ。今之ヲ列記スレバ左ノ如シ。

一、塞神社 名田村大字野島祓井戸ニアリシ無格社 祭神 天鈿女命(芝)

一、住吉社 全 村大字加尾ニアリシ無格社

一、春日社 全 村大字野島ニアリシ無格社

一、王子神社 全 村大字上野ニアリシ無格社ニシテ御幸記ニ上野王子トアル是ナリ

一、梅田明神 全 村同大字ニアリシ無格社

一、春日社 全 村大字楠井ニアリシ無格社

一、叶王子社 印南町大字津井ニアリシ無格社ニシテ御幸記ニツイノ王子トアル是ナリ

印南トルベシ(芝)

當社々掌ヲ岡田氏ト云フ岡田家ハ元岡本氏ト称シ、當麻津彦命ヨリ出テ(當麻神社御鎮座)

四代ノ孫岡村宿称ヲ経テ子孫連綿トシテ千五百年代々當社ニ奉仕ス。岡田姓ハ明治初年改姓

セルモノナリ。(岡田家ニハ累代ノ系譜及名刀ヲ傳ヘアリ)

▽最勝寺

本村大字山口字宮ノ前ニアリ。福德山ト號シ淨土宗鎮西派ニシテ印南町印定寺ノ末ナリ。當山

ハ元真言宗ナリシヲ元禄ノ頃僧圓澄中興ヲナシ淨土宗ニ改修シ本堂ヲ再建シタリ現今ノ本堂即チ

是ナリ。紀伊讀風土記ニ記セル旧寺域周六十六間ニシテ現在ノ境内坪数二百六十六坪檀徒戸数二

十六戸信徒数十二戸ナリ。本堂（三間半四面）及ビ庫裡・薬師堂（一間半四面）アリ。現在ノ庫裡ハ昭和四年三月改築セルモノナリ。

當山ハ村社八幡神社ニ近接シ背後ニ忝山ヲ負ヒ風致ニ富ム

### 歴代ノ住職

○……………○……………圓澄（元禄頃）……………喜譽感悦（寛永五年正月寂）……………長吟……………本哲（享保十一年二月寂）……………和全（享保十二年四月寂）……………萬快（享保十七年十二月寂）……………快辨……………善應……………長傳（寛延二年六月寂）……………眞端（天明七年三月寂）……………眞胤……………源序（明治五年）……………順界……………良完……………哲夫……………本了（大正十四年二月寂）……………光譽

### ▽仙光寺

本村大字山口ニアリ浄土宗西山派ニ属シ遍昭山ト號ス。元和四年僧善峯ノ開創スル所ニシテ現今ノ本堂ハ天明五年第十七世分契ノ再建セルモノナリ。堂ハ四間ニ五間ニシテ境内ニ觀音堂及地藏堂庫裡アリ。寺域二百〇三坪現在檀徒数五十戸信徒数二百戸ナリ

昭和四年本堂ノ内陣ヲ改造シテ甚ダ美觀ヲ極ム。

### 歴代ノ住職ハ

善峰（元和四年）……………諦存（宝永元年）……………善應（正徳二年）……………見潮（享保十四年三月寂）……………泰了（寛保三年）……………玄靈（宝曆三年五月寂）……………随靈（寛政七年七月二十一日寂）……………善了（宝曆十三年）……………芳随……………芳空分契（天明元年ヨリ同五年本堂再建）……………映岩（文化元年）……………快傳（文化八年）……………寶空眞龍（文化十二年）……………慈觀（文政十二年八月二十七日寂）……………誠空寶山（天保四年十月入院）……………松空靈雲（天保十四年三月十四日入院）……………忍空可道（嘉永三年十一月三日寂）……………常空靈住（文久三年七月五日寂）……………本空願阿（元治元年）……………智空觀玉（明治六年）……………芳孝山（明治十一年）……………芝終南兼（明治

二十三年)……聲空學音(明治二十六年)……縁空隨諦(大正十七年八月九日寂)……義慶(兼務)  
歴代ニツイテ日高郡誌所載トサイアリ(芝)

### ▽瀧法寺

縣道印南寒川線ヲ瀧之口ニテ分レ印南切目川線ヲ東ニ行クコト半町更ニ南ニ分レテ約一町ニシテ山林麓ニ至ル。鬱蒼タル老樹道ヲ挟ミ碧苔深キ間溪流ヲ右ニ眺メツ、峻坂ヲ上ルコト数町ニシテ瀧法寺ニ達ス。南陽山、南龍院ト號ス。古義真言宗山階派ニ属シ紀伊讀風土記ニ載スル所ノ旧寺域五町三十八間ナリ。偶々古傳ニ依ル三千有餘年ノ古刹ニシテ往昔ハ隆昌ヲ極メ郡内神宮寺ノ本山トシテ本郡川上莊山野村神光山光照禪寺同莊江川村神宮寺 印南町宇杉神宮寺 山田莊森岡村別当神宮寺等ノ末寺ヲ有シ伽藍其他莊麗ナリシモ天正ノ兵燹ニ罹リ堂宇什宝等鳥有ニ歸タリ今庫裡、觀音堂、鐘樓ノミ存ス。

觀音堂ハ元三間四面ナリシモ慶応二年旧九月七日夜ノ大風雨ニテ堂宇崩壞シ翌年仮堂ヲ営ム。十一面觀音ヲ安置セリ。今日堂ニアリシ本尊ノ脇立四天王ノ内毘沙門天、持国天ノ二尊ノ首ノミヲ現存セリ。昔時ノ面影ヲ俣バシムルモノアリ。現今ノ庫裡ハ大正十二年ノ改築セルモノナリ。

慶安二年八月高野山金剛三昧院ノ円海法印ガ當山ヲ中興シ青瀧權現(井奈瀧社)及ビ辨財天ヲ高野山ヨリ勸請シテ鎮座シタリ。往古南龍公熊野巡遊ノ途次暫シ当山ニ駕ヲ止メラレ大ニ此ノ地ノ風光ヲ賞セラレ南龍院ノ号ハ即チ公ヨリ賜ハリタリト言ヒ傳フ。山内ニ山神、稻荷社、金比羅社、秋葉社、弁天社アリ老樹鬱蒼タル間瀑布アリ落下十丈餘古來名付ケテ稻瀧ト云フ。四時水ノ

(伊奈原明神)

絶ユルコトナク就中雨後ノ如キハ飛泉奔瀨山巖夾ノ劈キ水雷ノ如ク樹籟之二和シ颯爽清冷言フベカラズ。三伏ノ炎暑モ忘ルヽニ至ル。傍ニ社殿ヲ営ム井奈瀧ト称ス（井奈瀧社ハ明治四十一年村社大歳神社ヘ合祀ス）今社殿ノミ存ス。（社殿ハ元当村大字印南原坂井直助及平野保兵衛ノ建立セシモノナリ）

周囲山皆緑苔ヲ生ジ老樹森鬱トシテ溪流ノ水声潺々トシテ澗底ニ鳴リ幽邃ナル風光人ヲシテ行路ノ勞ヲ忘レシム、仙境ト云フベシ。  
當山ノ住職ノ判明セルモノ左ノ如シ。

圓海（慶安二）……………暹算（天和元年）……………祐春（元禄ノ頃）……………慈雲（享保三）……………春長（享保十）……………  
將長（享保十二）……………聖義（享保十六）……………長成（享保十七）……………惠賢（安永三）……………龍洌（安永七）……………  
淨圓（明和五）……………轉德（天明四）……………深入圓心（天明七）……………靈旭（寛政十二）……………圓乘（文化五）……………  
……………惠教（安政三）……………（清品（安政四年八月））……………義寶（慶應元）……………尚春（明治十三）……………幸保（大正三）……………圓保（大正六）

田辺町誌ニ南部安養寺住職野村第一風ノ父密淨灌法寺ニ住シ明治二十八年安養寺ニ轉住ストアリ（芝口）

### ▽西岸寺

本村大字印南原字奈良井ニアリ。縣道寒川印南線ヲ瀧ノ口ヨリ印南切目川線ヲ東ニ行クコト数町ニシテ路傍ノ左ニ高キ磴段アリ、上ルコト八十八層ニシテ本堂ニ達ス。淨土宗西山光明寺ニ属シテ其ノ山號ヲ南涼山ト云フ往古ハ真言宗ナリシモノヽ如シ。寛正年間ニ明秀光雲ガ當山ヲ中興シテ西山派ヲ唱フト雖モ尔後元禄項マデハ歴代ノ住職ノ法名スラ明カナラズ。本堂ハ寶曆五年及

弘化二年ノ二回ニ涉リテ再築シタルガ白蟻ノ害ヲ被リ、明治二十六年六月取毀ヲナシ同四十一年三月廿五日印南町大字光川坂本ヨリ現今ノ位置ニ移轉シタリ。現在ノ寺域百四十二坪檀徒数六十二戸信徒数三百十五戸ナリ

歴代ノ住職ヲ列記スレバ

○…………○…………蜀室雲巳（元禄十四年八月二十三日寂）……………禪慶……………長山……………雲達……………禪加……………白門……………  
靈峰……………文靈……………理堪……………堪隨……………了辨……………圓良……………圓秀……………義端……………義運……………義孝……………義慶

### ▽正覺寺

本山大字印南原字中越ニアリ縣道寒川印南線ト北塩屋高城線トノ分岐点ヨリ東ニ行クコト一町紀勢西線ノ鐵路ヲ越エテ直ニ麓ニ到ル畠中ノ峻坂ヲ上リテ本堂ニ達ス。浚林山皆成院ト號シ浄土宗鎮西派ナリ現在ノ寺域三百四十一坪本堂（五間四面）及薬師堂庫裡アリ。壇徒戸数百五十六戸信徒数八十五戸

當山ハ元禄十三年僧重譽及永天太徳、辨譽ノ開創スル所ナリ。現在ノ本堂ハ宝曆十四年三月廿五日妙譽ガ中興シテ再建シタルモノナリ。庫裡ハ大正十一年五月十一日上棟改築セリ 元村内ニ地蔵寺法泉寺ノ二ヶノ末寺アリシガ明治三年頃当寺ニ合併セリ。當山ハ土地高台ニアリ境内ニ老樹多ク風致ニ富ム。

歴代ノ住職

官寺開山重譽……………永天太徳……………辨譽（元禄十三年十月四日）……………行譽……………震譽……………中興開山妙譽（宝曆十



貞盛……順達……法譽春花(寛政三年頃)……圓戒……圓明……準定……圓信……實道……純教……  
貫全……秀雄……輝雄(姓増田)……秀戒

▽明應寺

本村大字南谷字南岡ニアリ、山號ヲ樹林山ト名付ク。安永五年三月七日木佛本尊下附同日寺号  
允許セラル。真宗本派ニ属シ御坊町菌御坊末ナリ。寺域百六十八坪、檀徒数四十二戸信徒数三百

○五戸ナリ。

歴代ノ住職

翫月(明和元年九月二十六日寂)……三暁(天明六年三月十五日寂)……正因……正圓……正賢……正觀  
……正顯……正因

▽善忠寺

本村大字南谷字南岡ニアリ、淨土宗鎮西派ニシテ九品寺末ナリ。寺域六十八坪、檀徒数十六戸  
信徒数二百十五戸。本堂ハ明治十五年丙丁ノ難ニ罹リ尔来再建ニ至ラズ現今ハ庫裡ノミ存セリ。  
過去帳等焼失シテ歴代ノ住職分明セズ

▽天理教宣教所

本村大字印南原字瀧ノ口ニアリ。天理教敷島大教會紀陽分教會南陽支教會南盛宣教所ト云フ。  
開所ハ大正十三年四月五日、設立者丸木熊次郎ニシテ教戸数十二戸人員十四人信徒戸数百十戸、  
人員五百二十四人ナリ。

## 第二十二名所旧蹟

一、南陽山灌法寺 社寺宗教ノ條下ニ詳説シタリ

一、印南原城趾

本村大字印南原中越ニアリ。紀伊讀風土記ニ依レバ東西二十間南北四十六間當所ノ領主富田丑之助ノ居城ナリシト云ヒ傳フ。重編應仁記ニ富田丑之助ハ畠山高政ノ属臣ニシテ永禄五壬戌年春三好乱ノ時飯盛ノ城攻ニ討死ストアリ、西牟婁郡芳養村目良氏ノ文書ニ富田<sup>???</sup>氏<sup>???</sup>トアルハ是ナリ 此ノ城趾今ハ畑トナル。サレド墓数基アリテ昔時ヲ偲バシムルモノアリ

大歳神社宝物ノ金幣ニハ栗城主富田牛之助ノ名アリ丹生村和佐ニ富田山アリ恐ラクハ富田ハ富田ノ誤リナランカ 日高鑑書上ニモ富田トセリ間違ヲ継続セルカ(芝口)

一、雨乞山

本村大字印南原字古野ニアリ。高サ一四五米、此山ニ天狗松アリテ昔時ハ天狗棲メリトゾ云ヒ傳フ。古来旱魃ノ際里人ガ此ノ山ニ上リテ雨乞踊リヲナスノ古例アリ。古キ傘ノ如キ松アリ 其歌ニ

雨たんべかい 龍王そうれ かい曇れ おちやばらりん

寺西氏ノ郷土志料ニハ雨たんべ海龍王トセリ全書参照(芝口)

古来旱魃ノ時里人ガ此ノ山ニ上リ、太鼓、鉦ヲ打鳴シ踊リヲナス。下山ノ途中常ニ雨ニ逢フヲ例トセリ故ニ附近村ニ於テモ當村ガ此ノ山ニ上リテ雨乞ヲナスヲ待タレシナリト云ヒ傳フ。森

彦太郎氏著南紀土俗資料ニ曰ク（雨乞山ニ天狗松ト称スルニ抱程ノ老樹ガアツテ古来天狗ノ棲家ト云フ雨乞ナドノ際遅クナツテ夜ニ入レバ天狗ガアラハレテ旗ナド破ラレタト云フ）トアリ

## 一、寺跡 天南山（一名寺山）

日高郡誌に依ルニ丹生村大字江川長澤ノ山頂（稻原丹生ノ分水嶺）ニ寺屋敷ト称スル寺跡アリ、面積四段歩。里傳ニ昔此所ニ寺アリ山号ヲ天南山トイフ。一時ハ隆昌ヲ極メシガ手取落城ト共ニ衰頽シ今ヲ去ル百五十年前毘沙門天像ヲ丹生村江川ニ他ノ像ヲ印南原ニ遷スト。即チ印南原ニハ地藏寺（地藏寺ハ明治六年頃同地ノ正覺寺ニ併合ス（芝口））トシテ現存シ、江川ニテハ宝重寺ノ東ニ毘沙門堂アリ又天南山ノ扁額ハ宝重寺ニ掲ゲテ遂ニ同寺ノ山号ノ如クナレリト。此ノ山ニさくらんじよト云フ所アリハ備後松櫻之丞ト云フ者入滅ノ地ト云フ。往古此ノ峯ニ一巨木アリ其蔭四方ヲ覆ヒ遠望スルモノ以テ目標トス。按ズルニ享保十年ノ江川組ノ書上ニ文光寺ト云フアリ火焼ニツキ先年社寺御改ノ節書上ゲズト此寺跡ナランカ、トアリ

編者附記ス。日高郡誌ニハ丹生村江川長澤ノ山頂トアルモ寺屋敷ナリト傳フル所四反歩モアラントスル土地ノ大部分ハ當村大字印南原字西ノ谷ノ山頂ニアリテ現在尚土塀等ノ跡歴然ト残レリ今本村ニアリト傳フル地藏寺ノ佛像及觀音ノ像ハ同山ノ麓（南畑ニアリ）ニ金及山福壽庵ト号スル一堂宇ニ安置ス。共ニ古色蒼然トシテ古ヘノ面影ヲ偲バシムルモノアリ。昔時山頂ニアリシ一巨木ハ松ノ大木ニシテ旅人ガ鹿ケ瀬ヲ越エ来ルニ常ニ目標トセシト言ヒ傳フ。昔當地ノ人庚申久蔵ナルモノ此ノ木ヲ伐リケルニ突然變狂セル由古老ヨリ聞及ベリ。

カヽル旧蹟ニシテ而カモ二三六米ノ高峯上レバ四顧ノ風光掬スベク、北ニ丹生、早蘇、矢田、藤田ノ処村眼下ニアリ。日高川ノ流レ洋々トシテ白帶ノ如ク。此ノ日高川ノ河口御坊町塩屋村ハ指呼ニアリ。編者幼時此ノ峯ニ遊ブコト幾百度當時ハ巨巖怪石疊々トシテ大蛇棲息スラ言ヒ傳ヘタリ。其ノ後星移リ年更リ近時里

人ガ此ノ山ノ岩石ヲ破碎シ赤路ナリト傳フル所ノ廣キ山頂ヲ開墾シテ桑園トナシタリ。今又櫻樹數百本ヲ植栽シテ此ノ旧蹟ノ面影ノ止メントシツゝアリ。

## 一、鑛山穴

本村大字印南原字尻掛川池ノ西部約半町ニアリ白鐵鑛ノ廢坑ナリト言ヒ傳フ。坑口縱橫角一丈深サ七十餘間入口ニ水ヲ湛ヘタレド内ニ入レバ水ナシ坑内今ハ蝙蝠ノ棲所トナル

## 一、聖徳ノ渚

本村大字山口ニアリ。縁起傳説アリト雖モ詳ニセズ。深サ三丈アリ。(以上日高郡誌所載) 今是ヲ現存セズ

編者ガ一日昔時此ノ渚ノ所在地ヲ古老ヨリ聞キケルニ、往古ハ山口中洲橋ノ辺ヨリ下元大歳神社ノアタリ辺マデノ間ノ川ハ現在ヨリ西方ヲ流レタルモノヽ如シ。而シテ此ノ渚ハ此ノ大歳神社ノ附近ニアリシ由聞キタリ。以來川ヲ東ニ變更シテ其ノ地ヲ田トナシタリ。今ニ古川ト言フ所アリ

## 一、日高郡誌ニ記載セル本村旧蹟資料

正保二酉年以後ノ書付ニヨル當時ノ道法

小松原ヨリ印南原ヘ二里十五町 印南原ヨリ脇ノ谷マデ四十九町 印南原ノ西ニ一里塚リ。

同年ノ書上ニヨル川筋コト

南谷村北ヲ流レ明神川村南ヲ流レ川一所ニ落合南塩屋村北ノ方ヲ流レ海ニ入ル。

山口村ノ北ノ山奥ヲ流レ出ル川アリ此山口村ノ西ヲ流レ印南村ノ東ニ流レ海ヘ落ル。

# 第二十三 著名植物

本村ニ於ケル著名ノ樹木

名称	所在地	周囲	樹高	樹齡	備考
桃葉珊瑚 (あをき)	大字山口岡本加助氏邸内	地上一尺ノ所	九尺	二百年	八百八十一年 地上三尺ノ所ヨリ二段トナル
桃葉珊瑚 (あをき)	ハ灌木ニシテ大木トナルモノニ非ズ	くろがねもちの誤リナリ			くろがねもちハ当地ニテ皆あをきト俗稱ス日高郡誌モ誤レリ (芝口)
〃	岡田左内氏邸内	〃	八尺	十八尺	六百五十年
むくろじ	大字印南原字瀧之口滝法寺境内	地上五尺ノ所	八尺	廿五尺	八十年
とうぐすの木	同大字字中越正覚寺境内	〃	一丈五尺	四十五尺	七百年
銀杏	同大字柳畑専福寺境内	〃	七尺	二十五尺	七十年
松	同大字字柳畑 (字吉野)	〃	七尺	十五尺	四百五十年 雨乞山ノ傘松ナリ古来天狗棲メリト云フ松ナリ
楊梅 (やまもこ)	同大字字南谷 (西ノ谷)	地上二尺	一丈	二十尺	百五十年
全	同大字同字 (字平野岡)	地上三尺	一丈五尺	廿五尺	五百年
松	同大字字岡字 (三木垣内)	地上五尺	一丈	五十尺	四百五十年
全	同大字字東白川 (字東谷大歳神社境内)	〃	一丈三尺	五十五尺	七百年
藤	同大字字白川 (字津井田)		五尺	三十尺	七百年 通称藤藪ノ氏神ノ境内ニアリ
杉	同大字字中越 (字山谷)		八尺	五十尺	四百年 庚申堂傍ニアリ
檜 (正シクハ扁柏)	同大字字奈良井 (字深野)		八尺	百尺	四百年 氏神社旧跡ニアリ
馬目 (正シクハ姥目櫨 (芝))	同大字同字 (同字)		五尺	二十尺	四百五十年 同氏神社境内ニアリ
杉	同大字立石字立花		十尺	百十尺	二百年 東又助氏所有林ニアリ同大ノモノ二本アリ

本村ニ自生スル稀ナル植物 (日高郡誌ヨリ)

# 附 録

## 本村ヨリ郡内各町村ニ至ル里程表

町村名	里 程	町村名	里 程	町村名	里 程
眞妻村	三里二九町〇二間	寒川村	一二里二〇町五一間	由良村	六里〇四町二五間
切目川村	一、一六、二一	川上村	七、二二、二九	衣奈村	七、〇四、〇八
切目村	二、二六、三九	川中村	四、二一、二六	白崎村	六、三〇、二五
岩代村	三、二四、五六	船津村	五、三四、一三	志賀村	四、二八、二二
南部町	五、〇四、一二	早蘇村	三、〇一、三八	比井崎村	五、一六、三七
上南部村	五、二七、二九	丹生村	一、〇三、三九	三尾村	四、三四、一三
高城村	四、〇八、五〇	野口村	二、二三、三〇	和田村	三、二二、四五
清川村	六、〇六、五〇	矢田村	二、三〇、〇三	松原村	三、〇六、五七
下山路村	七、三五、四六	藤田村	三、〇九、一二	御坊町	二、二四、二五
中山路村	八、一五、二一	湯川村	三、一八、四一	塩屋村	一、三三、二四
上山路村	九、三四、二〇	東内原村	四、一二、二五	名田村	一、三三、四九
龍神村	一四、〇六、三一	西内原村	五、〇九、二五	印南町	一、二二、一〇

綱 目	科	名 称	産 地	備 考
被子植物	双子葉類	睡蓮科	本村内	すゐれんとモ云フ
"	"	金絲姥科	"	"
"	"	櫻草科	"	芝口氏採取
"	"	灌摩科	"	"
"	"	ふなばらそう	"	"
"	"	ひつじぐさ	"	"
"	"	こおとぎり	"	"
"	"	みやまたごぼう	"	"
"	"	ふなばらそう	"	"

紀勢西線敷設ニヨリ本村内鐵道用地（潰地）

昭和五年七月末日現在

地目	反別	地價
田	九二反九〇	四、二五六円〇五〇
畑	一六〃〇一四	五一〇、九一〇
宅地	一三七〇坪六五	三五五、七〇〇
山林	四五反七二五	一五、九二〇
溜池	反四二四	
堤塘	反〇〇九	

稻原村村勢一班終

昭和五年九月

非賣品

和歌山縣日高郡稻原村役場

本書ハ謄写版印刷ニシテ半紙五十枚綴リナリ昭和五年九月ノ編纂ニシテ  
當時稲原村役場ニ勤務セル人（中村新太郎氏？）ノ丹誠ニカゝル。  
村政 事務 各種事業 土木 社寺等ノ記載ニ見ルベキモノ多シ

昭和二十五年七月三十一日之ヲ写シ畢

芝 口 常 楠

昭和二十五年八月三十日之ヲ写シ畢

清 水 長 一 郎

平成 十五年三月二十四日之を活字化する（一太郎 Ver.15）

カタカナのためひらがなから変換するのに苦労した 間違いではないかと  
考えられるものもそのまま転写した

清 水 章 博

日高郡稻原村勢一班

昭和五年九月

和歌山縣  
日高郡

稻原村勢一班

稻原村役場